

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2020年1月から3月
2. 調査対象：小樽市内の企業273社
3. 内 訳：製造業61、卸売業28、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業47
サービス業39、建設業34
4. 回答企業数：193社（70.6%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

2018年度に「観光・サービス業」を、「観光業」と「サービス業」に分類したため、同2業種の「主要3項目DIの推移」には、2018年度第1・四半期以降のデータを掲載しています。

概 況

— 市内景況は、悪化している —

前年同期（2019年1月～3月）と比べた今期（2020年1月～3月）の状況
今期と比べた来期（2020年4月～6月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは▲41.8で、前年同期と比べ33.5ポイント低下しました。新型コロナウイルスの流行が業況を悪化させており、全ての業種で業況DIが低下し、マイナス水準となりました。また、建設業を除く全ての業種で需要の停滞が主要な課題です。

業種別DIは、製造業が同23.5ポイント低下の▲37.5となりました。食料品製造、金属製品製造の売上減少が顕著です。需要の停滞が課題であり、食料品製造では人件費の増加も主要な課題です。卸売業は同24.4ポイント低下の▲37.5となりました。建築材料の売上が増加傾向にあり、業種全体では仕入単価が増加しました。需要の停滞が深刻な課題です。小売業は同28.8ポイント低下の▲51.9となりました。業種全体で客数が減少傾向にあり、食料品小売や日用品小売では売上の減少が見られます。需要の停滞が最大の課題です。運輸・倉庫業は同6.6ポイント低下の▲31.6となりました。旅客運送の売上減少、採算や業況の悪化、従業員不足が顕著な反面、貨物運送、倉庫はやや悪化または不変となりました。業種全体では、需要の停滞と従業員不足が課題です。観光業は同98.9ポイント低下の▲93.1となりました。ほぼ全ての企業で業況、売上、採算が悪化し、日本人客、インバウンドともに減少しました。ホテルの客室稼働率は、全ての施設で減少しました。新型コロナウイルスの影響により、極めて深刻な状況に直面しています。サービス業は同32.6ポイント低下の▲21.5となりました。飲食店は業況、売上、採算の悪化、客数減少が顕著ですが、他の企業はやや悪化または不変となりました。人件費の増加と、従業員の確保難が主な課題です。建設業は同19.3ポイント低下の▲19.3となりました。材料仕入価格が上昇傾向にあり、従業員は熟練、非熟練を問わず不足しています。

来期の業況判断DIは▲36.1で、悪化傾向が弱まると予想しています。新型コロナウイルスの動向を予測できない、需要の停滞や景気の悪化が続くと予想する企業が多く、今期の業況が安定または好調だった企業も、新型コロナウイルス流行の長期化による業況の悪化を懸念しています。

業況、売上、採算

今期（2020.1～3）の業況判断DIは▲41.8で、前年同期(2019.1～3)と比べ33.5ポイント低下し、大幅に悪化しました。

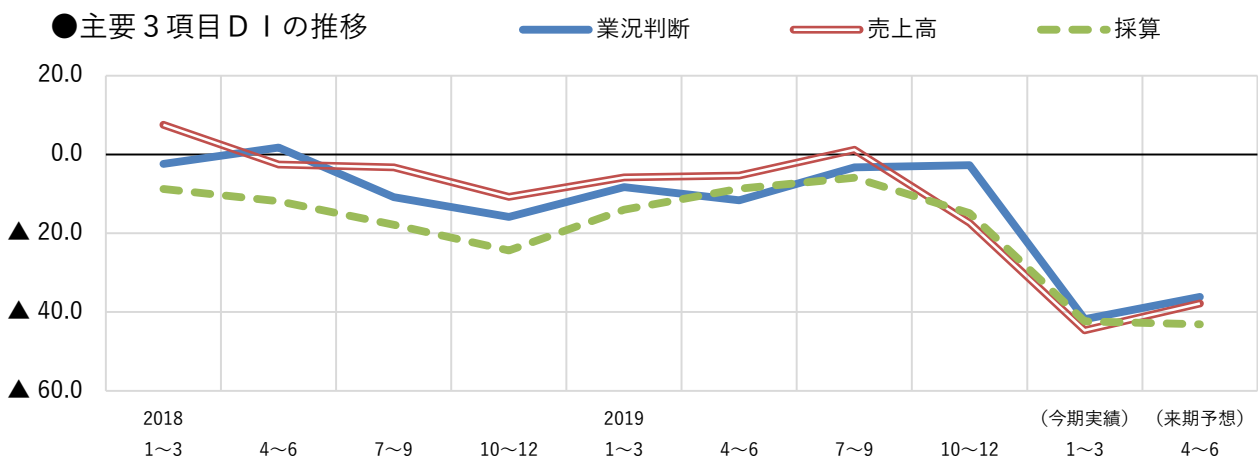
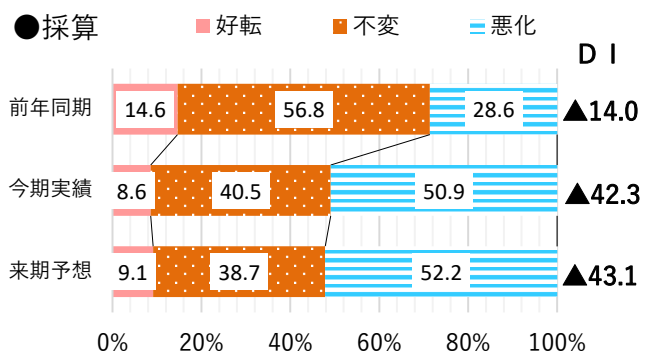
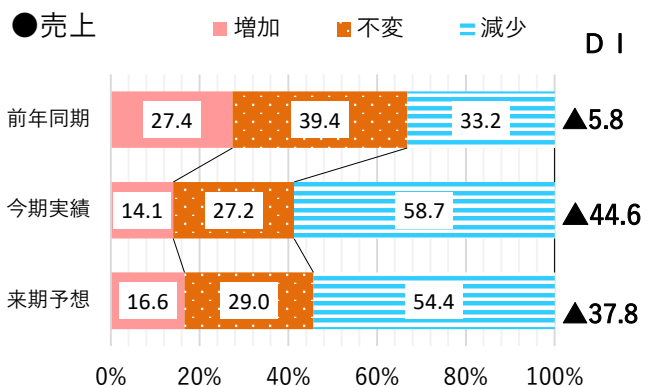
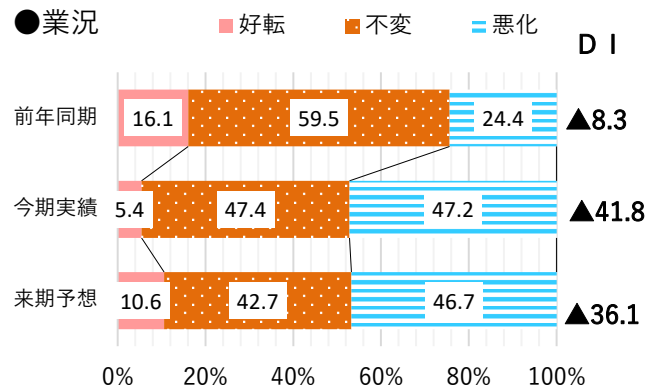
来期（2020.4～6）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲44.6で、前年同期と比べ38.8ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、売上の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲42.3で、前年同期と比べ28.3ポイント低下しました。

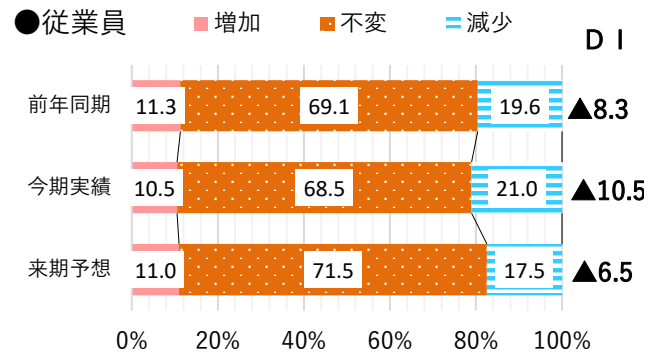
来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



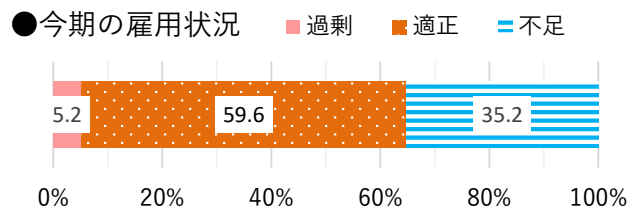
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲10.5で、前年同期と比べ2.2ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は5.2%、適正であると回答した企業の割合は59.6%、不足していると回答した企業の割合は35.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、全業種の44.0%を占めています。

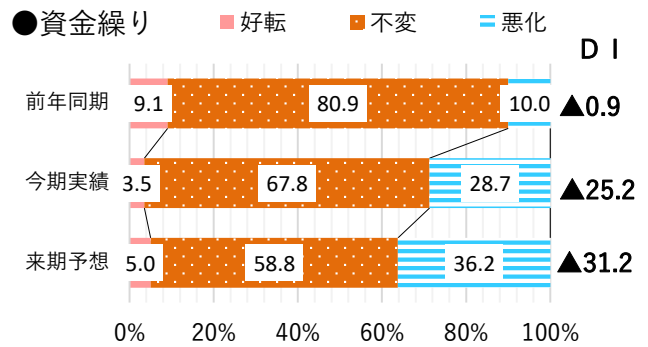
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	16
	不足	5
不変だった	過剰	6
	適正	85
	不足	40
減少した	過剰	3
	適正	14
	不足	23

資金繰り、設備投資

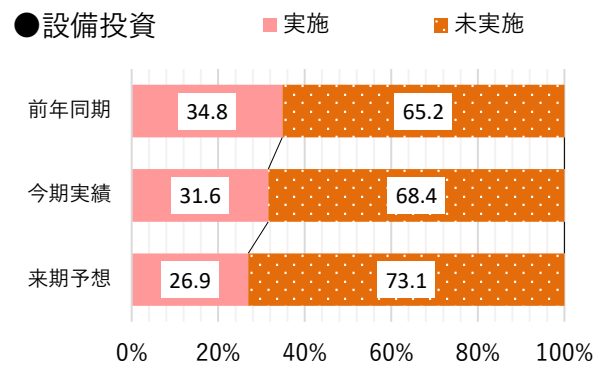
今期の資金繰りDIは▲25.2で、前年同期と比べ24.3ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった193社の31.6%にあたる61社が実施、前年同期と比べ3.2%低下しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「OA機器」の順です。

来期は、26.9%にあたる52社が設備投資を計画していると回答しています。

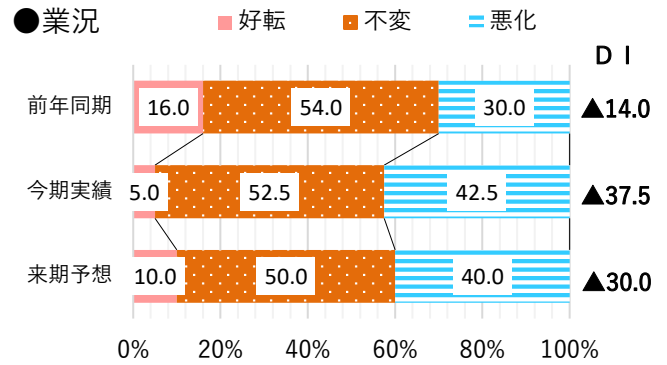


製造業

業況、売上、採算

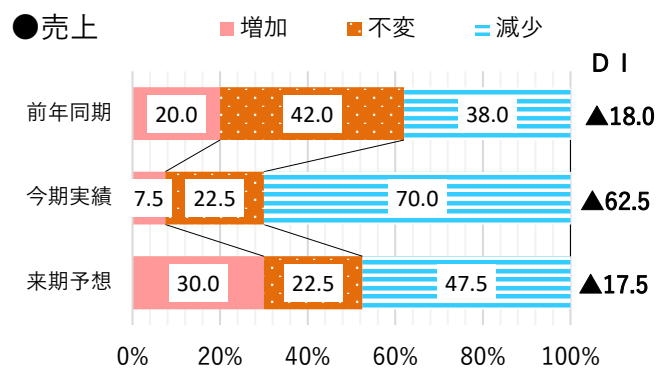
今期(2020.1~3)の業況判断DIは▲37.5で、前年同期(2019.1~3)と比べ23.5ポイント低下しました。

来期(2020.4~6)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



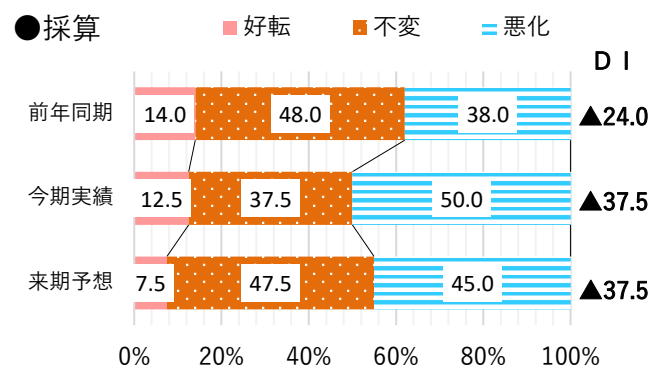
今期の売上DIは▲62.5で、前年同期と比べ44.5ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が大幅に改善されると予想しています。

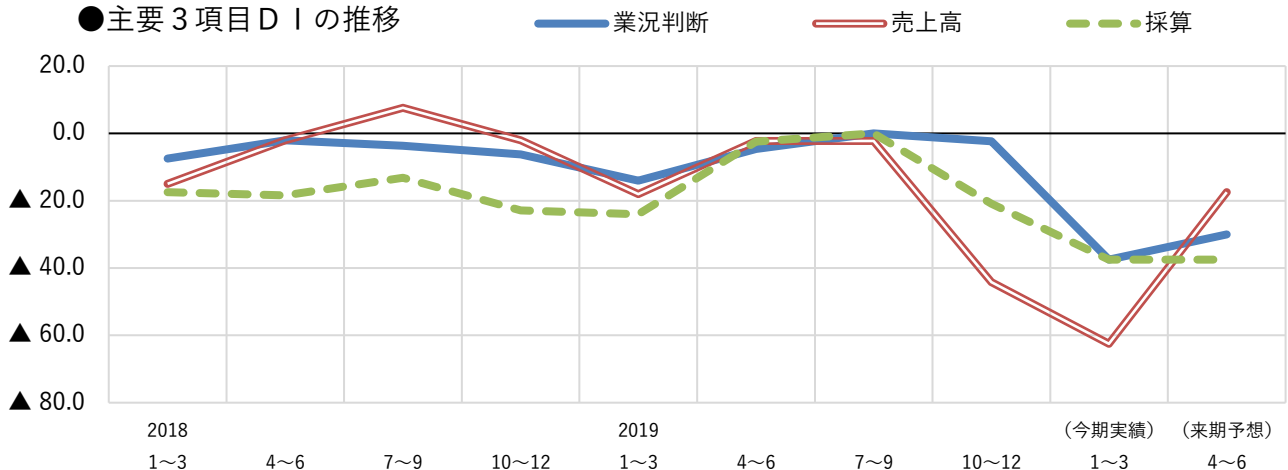


今期の採算DIは▲37.5で、前年同期と比べ13.5ポイント低下しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



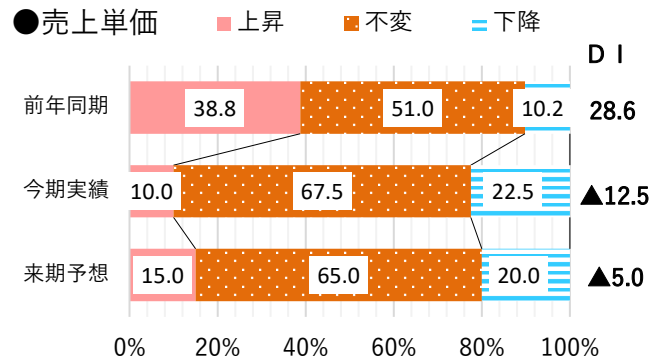
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

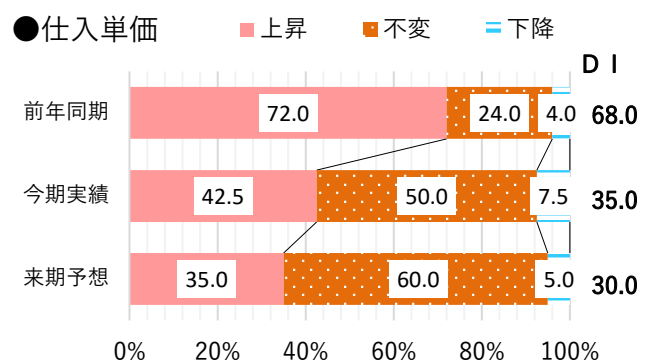
今期の売上単価DIは▲12.5で、前年同期と比べ41.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ売上単価の下降傾向が弱まると予想しています。



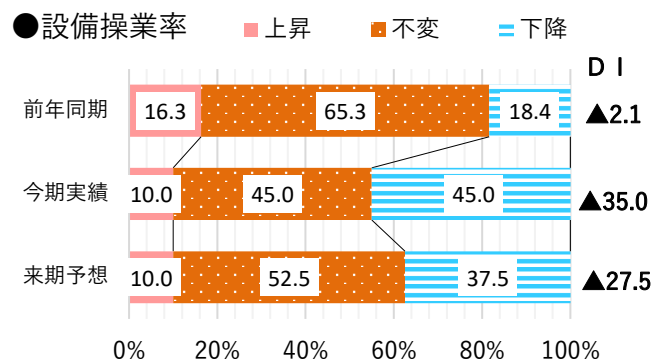
今期の仕入単価DIは35.0で、前年同期と比べ33.0ポイント低下し、大幅に下降しました。

来期は、仕入単価が下降すると予想しています。



今期の設備操業率DIは▲35.0で、前年同期と比べ32.9ポイント低下し、大幅に下降しました。

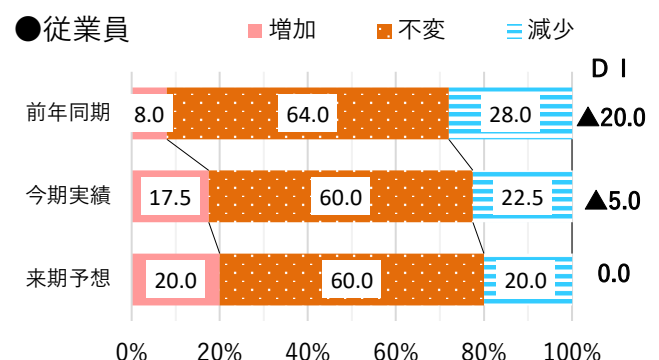
来期は、今期と比べ設備操業率の下降傾向が弱まると予想しています。



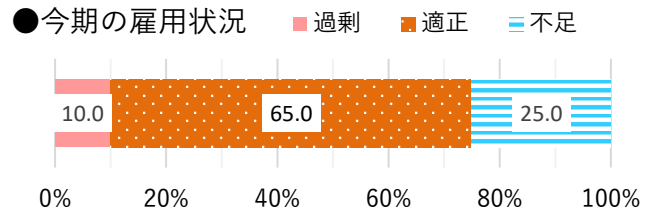
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.0で、前年同期と比べ15.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は10.0%、適正であると回答した企業の割合は65.0%、不足していると回答した企業の割合は25.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、製造業全体の40.0%を占めています。

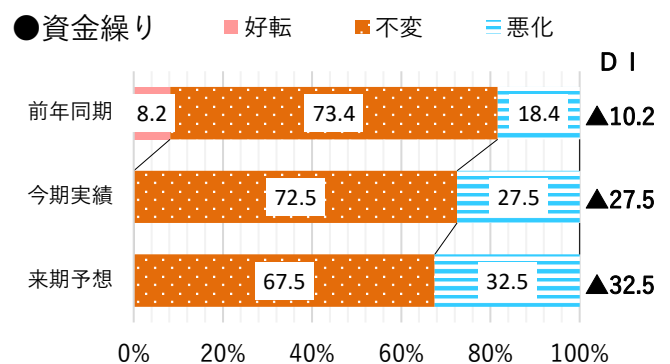
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」（同位）という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	6
	不足	1
不変だった	過剰	2
	適正	16
	不足	6
減少した	過剰	2
	適正	4
	不足	3

資金繰り、設備投資

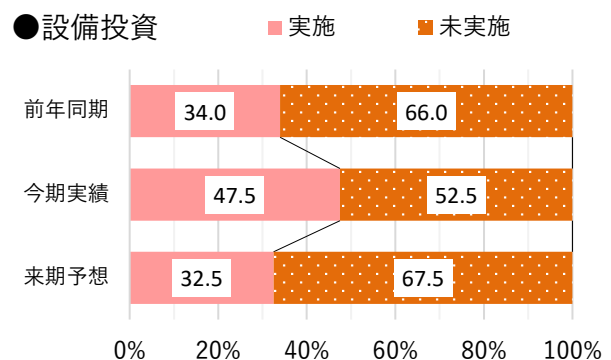
今期の資金繰りDIは▲27.5で、前年同期と比べ17.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



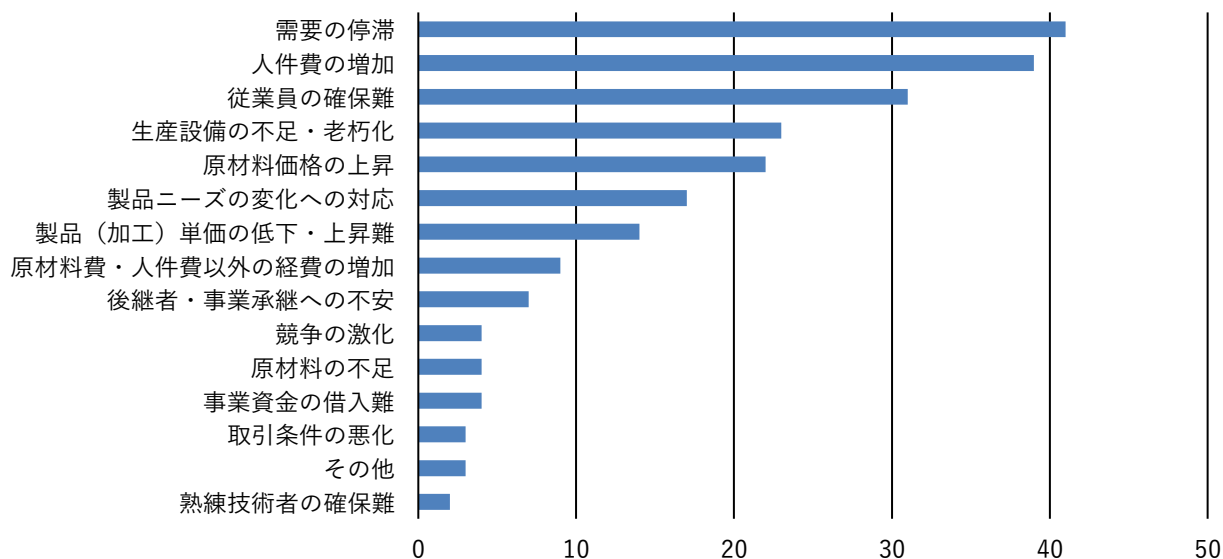
設備投資を実施した企業の割合は47.5%で、前年同期と比べ13.5%増加しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は32.5%で、今期と比べ減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「人件費の増加」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの世界的流行により、一部住宅設備機器類の生産が遅れ、住宅建設業界に悪影響が生じている。自社も電装系部品の一部が遅れて入荷する見通しである。（金属製品）
- 春先の出荷に向けて、生産ラインは順調である。商品出荷時に売上を計上しているため、現在の売上は低い、予定通りに推移している。（金属製品）
- 水産業の悪化に伴い、業況が悪化した。（金属製品）
- 新規設備の稼働により、生産が増加した。（プラスチック）
- 中国向けの出荷が、新型コロナウイルスの流行以降鈍化した。（機械器具）
- 降雪量の減少により製品需要が低下したため、業況が悪化した。（ゴム製品）
- 厳しい操業だった。（ゴム製品）
- 冬季に入り、売上は減少している。原材料仕入価格が上昇したため、採算が悪化した。（紙製品）
- 通年販売の主力製品の売上が振るわず、在庫の増加が資金繰りを圧迫しているが、新製品の販売好調と、原材料仕入単価の低下により増収となった。季節性の高い製品の売上は、ほぼ横ばいだった。雇用強化により、従業員数が増加した。（食料品）
- 昨年の消費税増税前から不況を実感していたが、増税後の消費者の買い控えにより、売上不振となった。加えて新型コロナウイルスの流行により、業務用商品が全くの不振で、スーパー等の小売店向け売上の増加ではカバーできないほど売上が減少した。（食料品）
- 昨年10月の消費税増税以降、消費に今ひとつ力強さが感じられない状況の中で、新型コロナウイルスの流行により、観光やイベント関係のキャンセルが多く、苦戦している。（食料品）
- 原材料価格の上昇のため、売上単価を引き上げることができており、売上は多少減少したが、利益にそれほど落ち込みは無い。（食料品）
- 水産資源の漁獲量減少で、既存顧客への売上が減少したため、道外新規顧客へアプローチを行っている。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響が徐々に大きくなり、インバウンドや量販店向けの出荷が減少した。（食料品）

- 販売環境が悪化したため、売上が減少し、在庫が増加した。（食料品）
- 売上、利益ともに多少増加した。（食料品）
- 新型コロナウイルスの影響により、売上が減少した。家庭での消費量を増加させるべく、販促活動を行っているが、不発に終わっている。（飲料）

[来期の業況について]

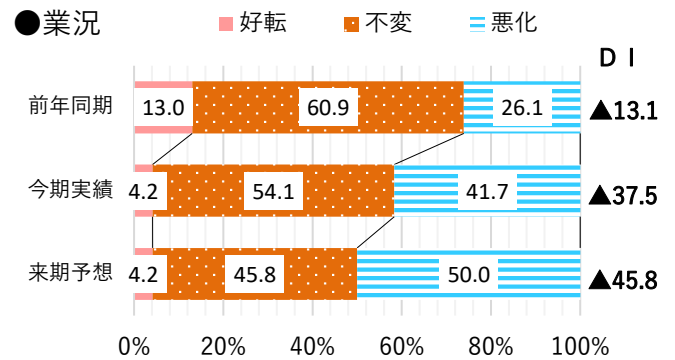
- 中国国内の部品製造状況が、新型コロナウイルスによってどのような影響を受けているのか気になっている。自社も、数字に表れない部分で様々な影響を受けると予想される。働き方改革による労働時間の制約もあり、苦しい操業が予想される。（金属製品）
- 基礎需要が減退している中で、4月以降の需要に対する供給が先延ばしになり、低迷すると思われる。（金属製品）
- 新型コロナウイルス対策の動向によって、業況が一変する可能性が高い。（プラスチック）
- 受注の増加を図る。（プラスチック）
- 売上の大きな増加は見込めない。内製時期に入る。（機械器具）
- 新型コロナウイルスにより、中国からの原材料等輸入量が不透明な状況のため、多大な影響が予想される。（ゴム製品）
- 利益率の向上を図る。（ゴム製品）
- 新型コロナウイルスの影響が強まり、業況が悪化するだろう。（紙製品）
- 主要原料の生産枠減少が決定しており、仕入単価の上昇が見込まれる。主力製品の季節性と、新製品販売による増収が予想される。雇用強化により増加した従業員数の維持が課題であり、人員確保のための諸経費増加が予想される。（食料品）
- インバウンド向けの出荷はほぼゼロになると予想する。この状況が長引くと深刻な状況になり、雇用の維持も困難になる。（食料品）
- 新型コロナウイルスの流行が長引けば大不況になるだろう。見通しが全く立たない状況である。（食料品）
- 観光関係が大きな打撃を受けているため、全ての面で見通しが全く立っていない。（食料品）
- 北海道物産展に関わる売上が5%ほど減少すると思われる。（食料品）
- 官公庁からの大口の受注が減少するだろう。（食料品）
- 新型コロナウイルスの終息を祈る。（食料品）

卸 売 業

業況、売上、採算

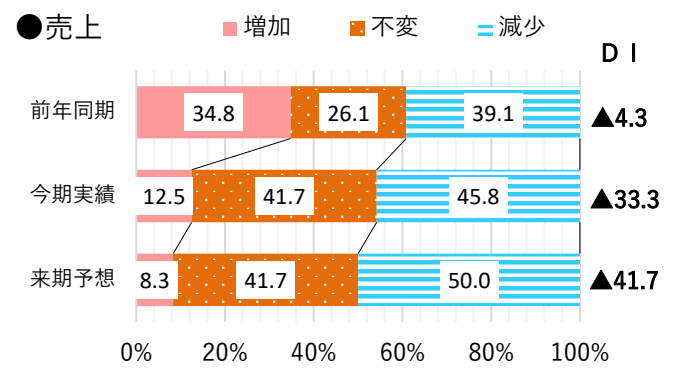
今期(2020.1~3)の業況判断DIは▲37.5で、前年同期(2019.10~12)と比べ24.4ポイント低下しました。

来期(2020.4~6)は、今期と比べ業況の悪化傾向が強まると予想しています。



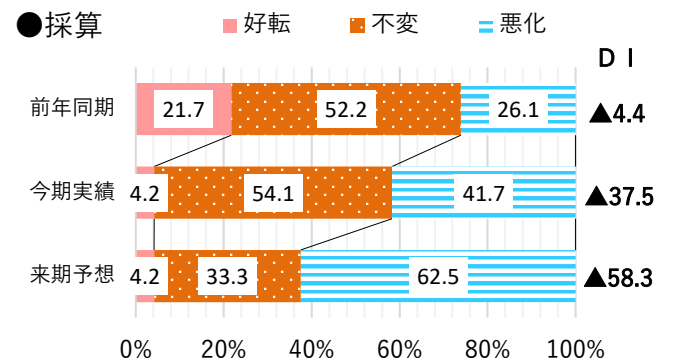
今期の売上DIは▲33.3で、前年同期と比べ29.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が強まると予想しています。

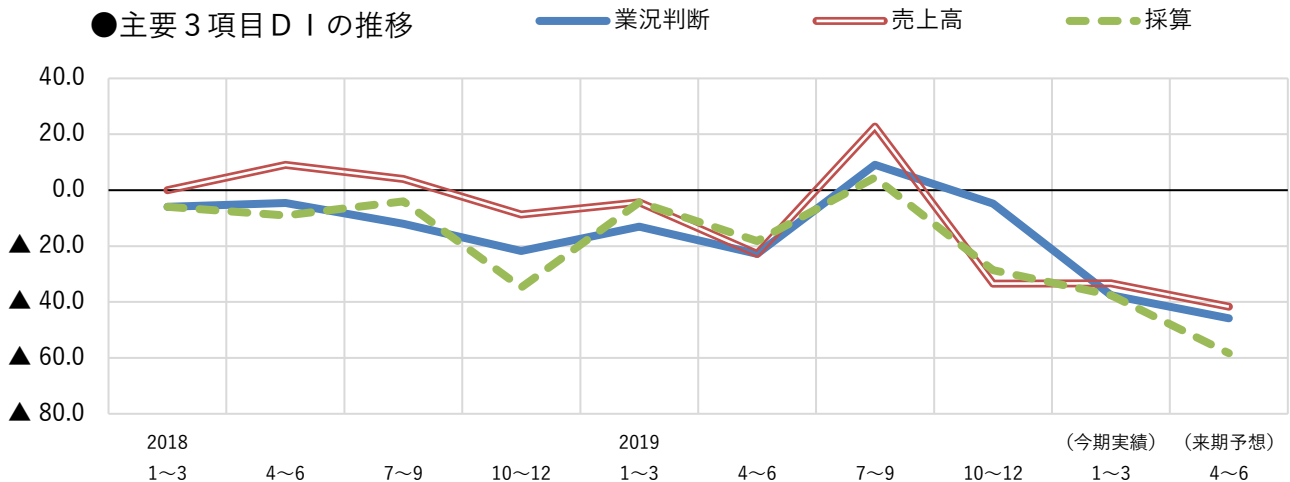


今期の採算DIは▲37.5で、前年同期と比べ33.1ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が強まると予想しています。



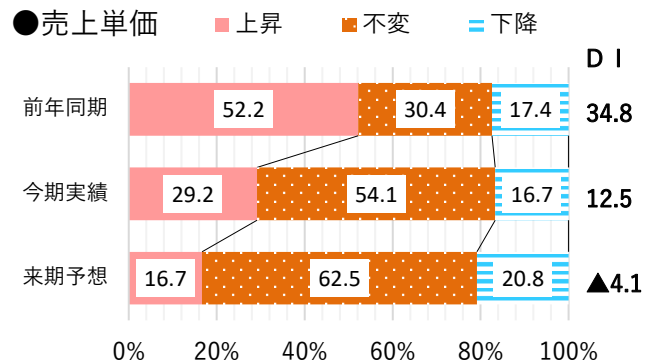
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

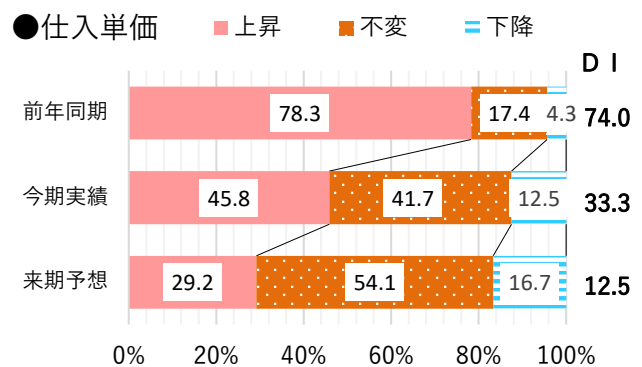
今期の売上単価DIは12.5で、前年同期と比べ22.3ポイント低下しました。

来期は、売上単価が下降に転じると予想しています。



今期の仕入単価DIは33.3で、前年同期と比べ40.7ポイント低下し、大幅に下降しました。

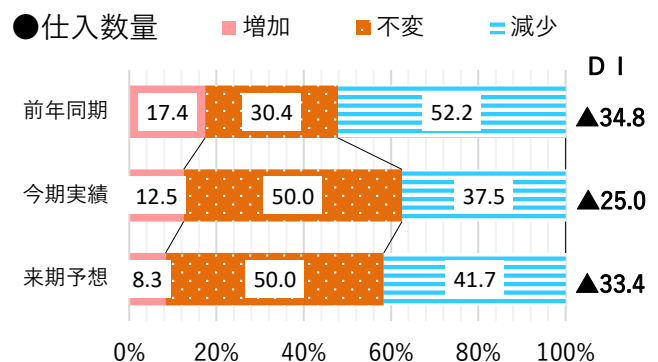
来期は、今期と比べ仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

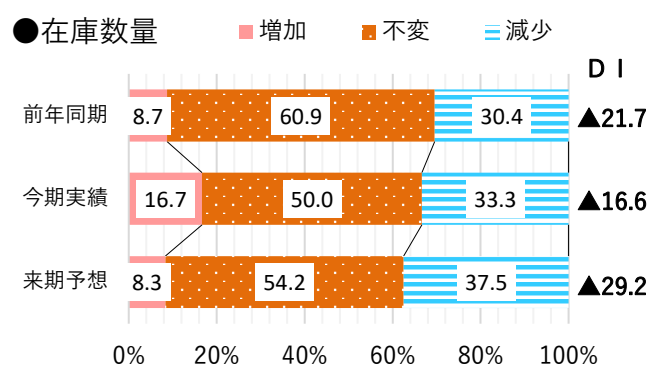
今期の仕入数量DIは▲25.0で、前年同期と比べ9.8ポイント上昇しました。

来期は、仕入数量の減少傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲16.6で、前年同期と比べ5.1ポイント上昇しました。

来期は、在庫数量の減少傾向が強まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

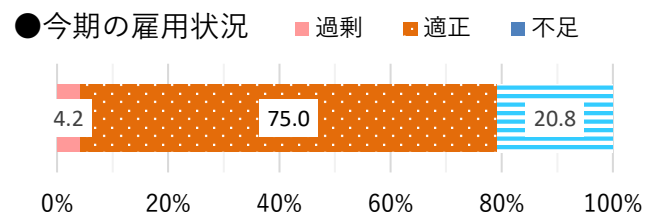
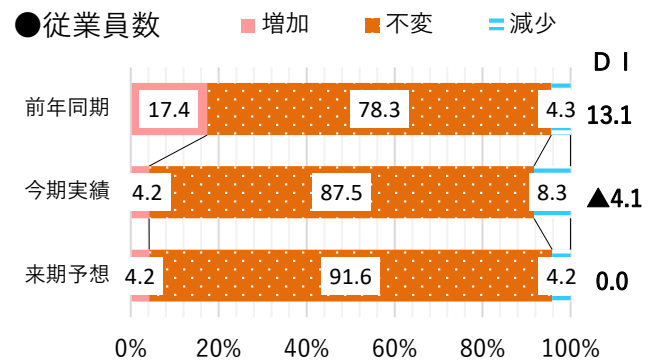
今期の従業員DIは▲4.1で、前年同期と比べ17.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は4.2%、適正であると回答した企業の割合は75.0%、不足していると回答した企業の割合は20.8%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の70.8%を占めています。

次いで多かった回答は「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

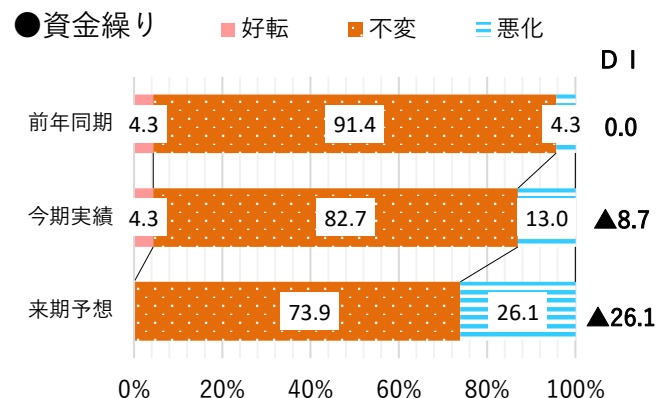


今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	1
	適正	17
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

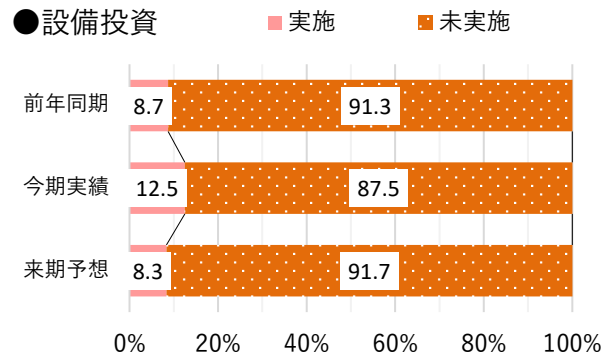
今期の資金繰りDIは▲8.7で、前年同期と比べ8.7ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



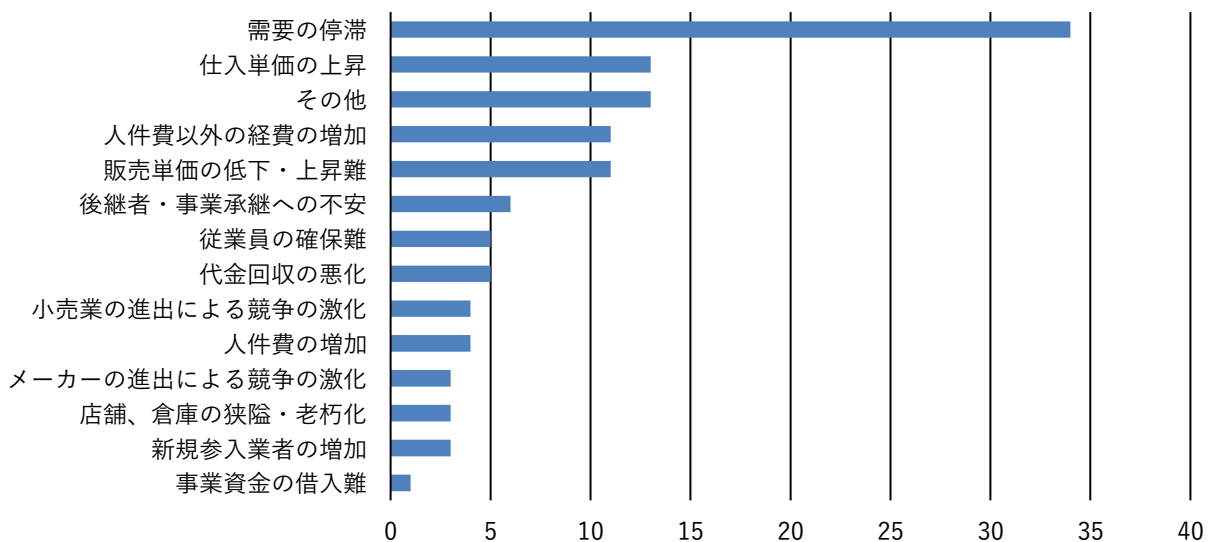
設備投資を実施した企業の割合は12.5%で、前年同期と比べ3.8%増加しました。投資内容は1位が「土地」、「車両運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」、「その他」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は8.3%で、今期と比べ減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「需要の停滞」、2位が「仕入単価の上昇」、「その他」（同位）、3位が「人件費以外の経費の増加」、「販売単価の低下・上昇難」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 人手不足、物流コストの上昇に伴い、メーカー仕入単価は引き続き上昇傾向にある。新型コロナウイルスの流行で会合、行事が自粛傾向にあり、国内外の観光客が減少したため、宿泊、飲食、物販に関わる業者が厳しい状況にある。市民も外出を控えているため、購買が減少し、深刻な状況である。（食料・飲料卸売）
- 送料等の値上がりが続ぎ、売上単価と送料のバランスを保つことが困難になっている。また、メーカーからの仕入が増える可能性がある。（食料・飲料卸売）
- 新型コロナウイルスの影響により、売上がどこまで下がるのか見通しが立たない。北海道は全国と比較して影響が大きいと思う。（食料・飲料卸売）
- 大きな変動は無い。ロシアの取引先も堅調な業績を示している。（食料・飲料卸売）
- 売上が極端に減少した。仕入価格、人材等に変化は無かった。（食料・飲料卸売）
- 新型コロナウイルスの影響で売上、採算等、全体的に大きく悪化した。（水産物卸売）

- 新型コロナウイルスの影響により売上が減少した。（水産物卸売）
- 北海道新幹線、国道5号高規格道路工事関連の商材が活発に動いており、売上は増加しているが、人件費の増加等による仕入価格改定の動きも多い。（建築材料卸売）
- 売上は前期と同水準で推移したが、前期が悪かったため、喜べる結果ではない。（鉱物・金属材料卸売）
- 新型コロナウイルスの流行により、業況が悪化した。（包装資材卸売）
- 他市から同業他社が進出したため、対応に苦勞している。市内自動車整備工場の経営者が高齢化しており、取引先が年々減少している。雪が少ないため、除雪関連の売上も減少している。（自動車部品卸売）
- 設備投資需要が多かった。昨年度に次ぐ好業績だった。（電気機械器具）
- 1～2月は新型コロナウイルスの流行による観光客の減少と、暖冬により売上が減少した。3月は人の動きが滞っているため、ガソリンが販売不振である。（石油卸売）
- 昨年末から少しずつ売上が減少しており、新型コロナウイルスの流行により大きく減少した。新型コロナウイルスの影響は、いずれ全業種に及ぶと思われる。（塗料卸売）

[来期の業況について]

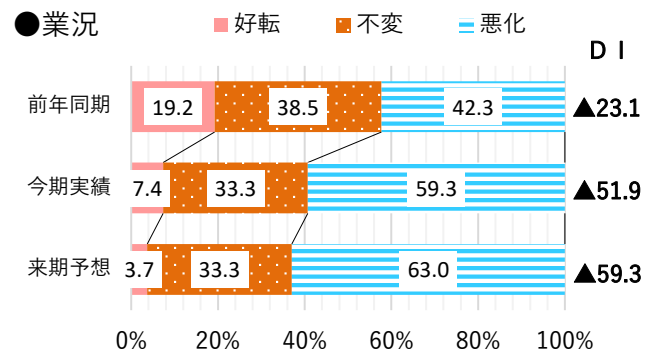
- 新型コロナウイルスの問題が解決しておらず、これほど予測が難しい年は無いと思う。人材は確保できているため、新型コロナウイルスの問題が解決されれば、特に悲観はしていない。（食料・飲料卸売）
- ロシアのルーブル安と新型コロナウイルスの影響が懸念されるが、高所得者の購入意欲は旺盛なので、そこに狙いを定めて販売する。（食料・飲料卸売）
- 新型コロナウイルス流行の長期化が懸念される。終息せずに5月の連休を迎えると、影響は大きい。（食料・飲料卸売）
- 新型コロナウイルスの影響が予想できないが、利益を死守すべく、対策を講じている。（食料・飲料卸売）
- 得意先等に、送料の一部負担をお願いすることとなるだろう。送料や商品単価の下落は考えられない。（食料・飲料卸売）
- 売上の回復は期待できない。（水産物卸売）
- 2020年度の上半期は、新型コロナウイルスの影響が見込まれる。4～6月期の業績は悪化するだろう。（電気機械器具）
- 上半期は、新型コロナウイルスの影響が続くと予想される。（石油卸売）

小 売 業

業況、売上、採算

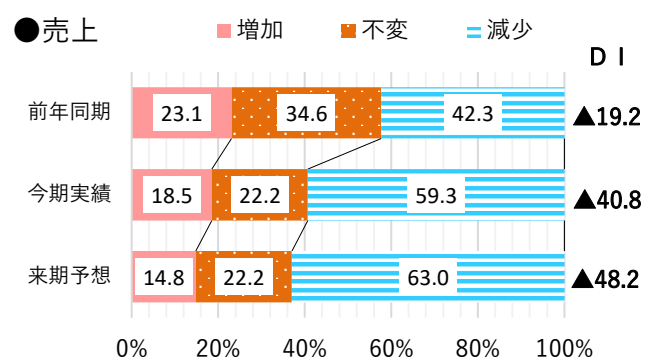
今期(2020.1~3)の業況判断DIは▲51.9で、前年同期(2019.1~3)と比べ28.8ポイント低下しました。

来期(2020.4~6)は、業況の悪化傾向が強まると予想しています。



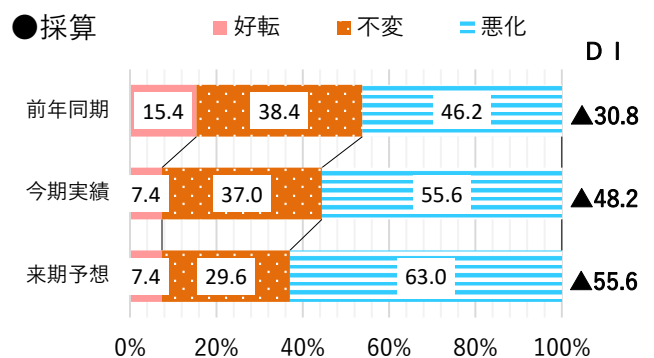
今期の売上高DIは▲40.8で、前年同期と比べ21.6ポイント低下しました。

来期は、売上の減少傾向が強まると予想しています。

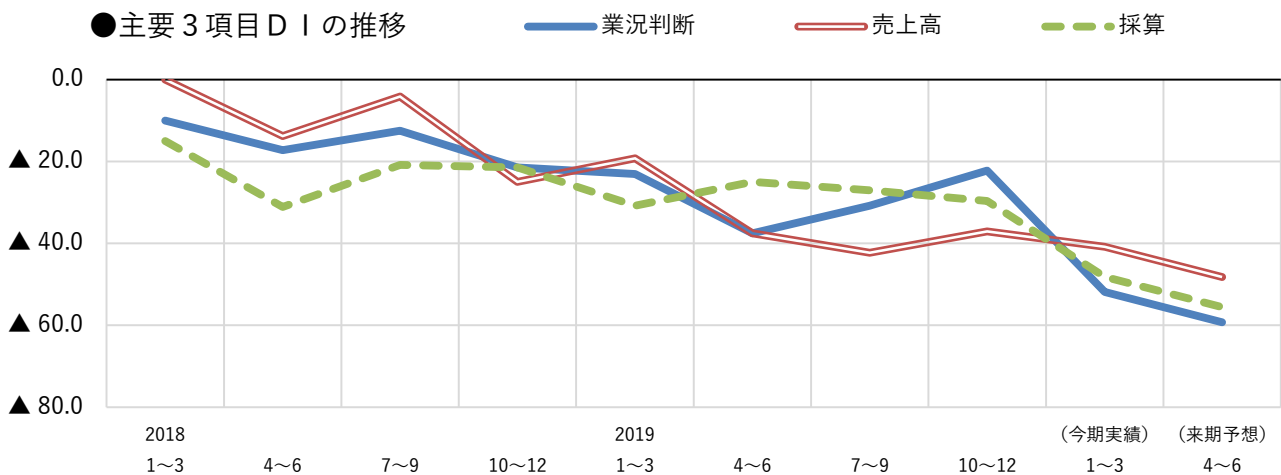


今期の採算DIは▲48.2で、前年同期と比べ17.4ポイント低下しました。

来期は、採算の悪化傾向が強まると予想しています。



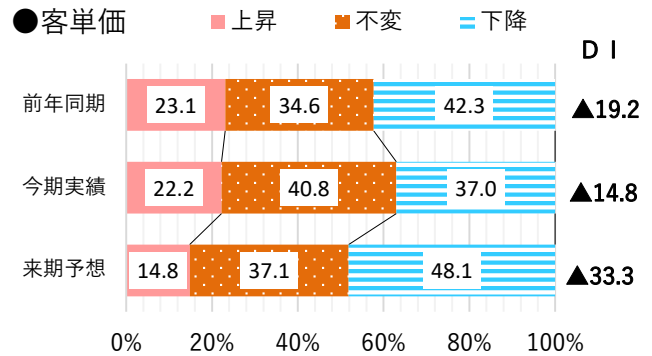
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

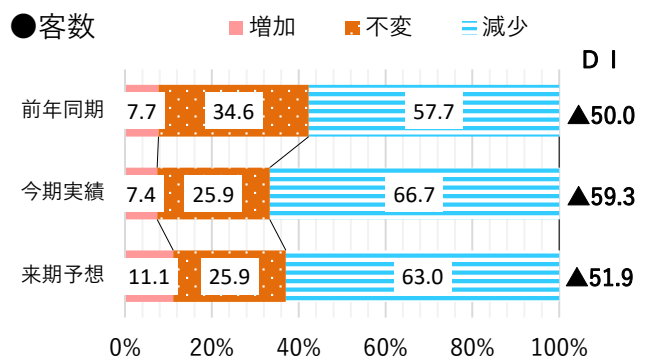
今期の客単価DIは▲14.8で、前年同期と比べ4.4ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ客単価の下降傾向が強まると予想しています。



今期の客数DIは▲59.3で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

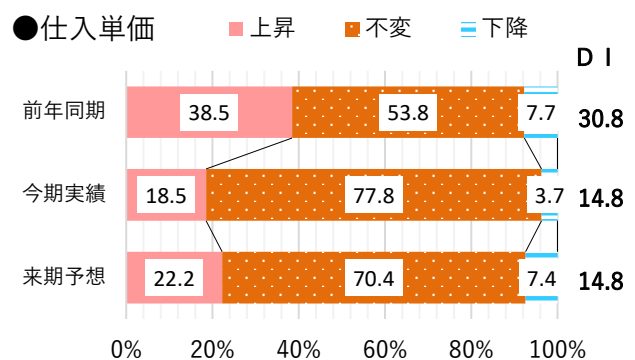
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

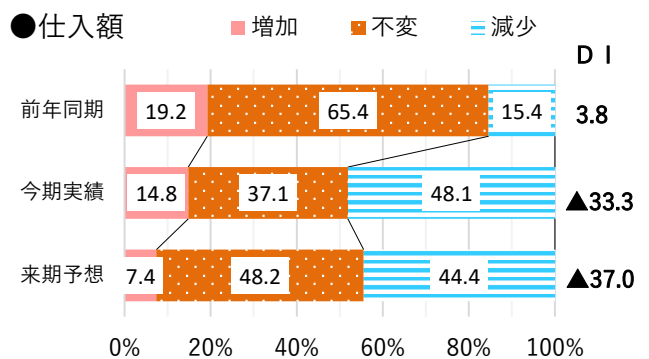
今期の仕入単価DIは14.8で、前年同期と比べ16.0ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ仕入単価の横ばいを予想しています。



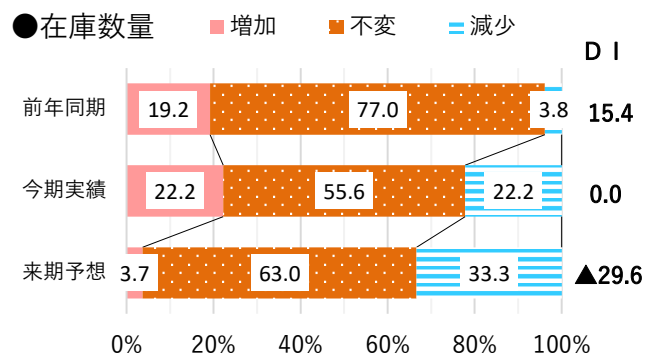
今期の仕入額DIは▲33.3で、前年同期と比べ37.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、仕入額の減少傾向が強まると予想しています。



今期の在庫数量DIは0.0で、前年同期と比べ15.4ポイント低下しました。

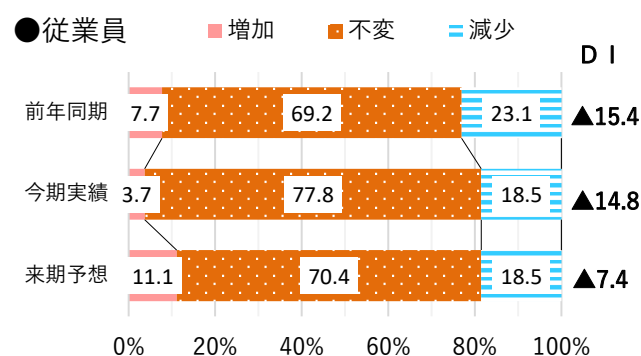
来期は、在庫数量が大幅な減少に転じると予想しています。



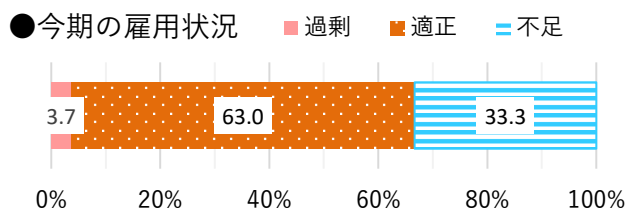
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲14.8で、前年同期と比べ0.6ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.7%、適正であると回答した企業の割合は63.0%、不足していると回答した企業の割合は33.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の48.1%を占めています。

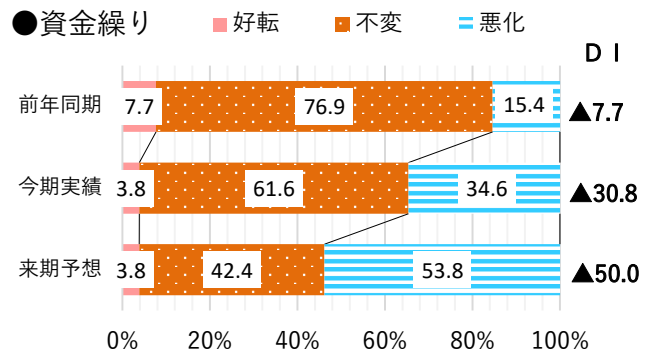
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	13
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	3
	不足	2

資金繰り、設備投資

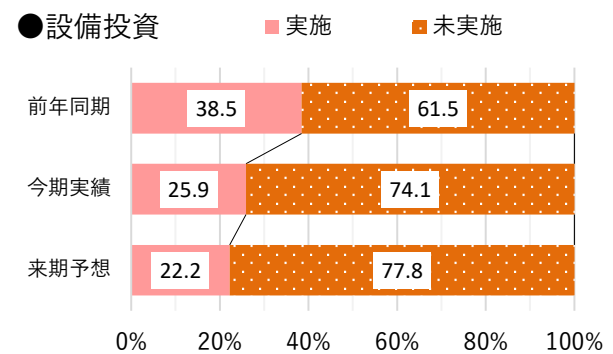
今期の資金繰りDIは▲30.8で、前年同期と比べ23.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。



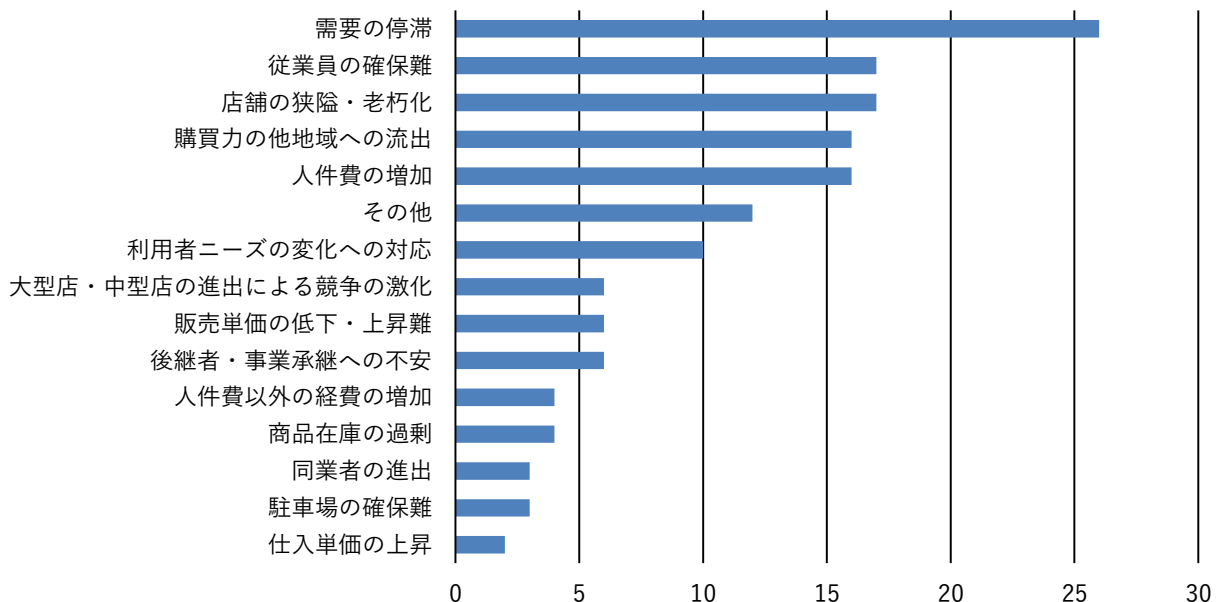
設備投資を実施した企業の割合は25.9%で、前年同期と比べ12.6%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「土地」、「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は22.2%で、今期と比べ減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「従業員の確保難」、「店舗の狭隘・老朽化」（同位）、3位が「購買力の他地域への流出」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 店頭販売、ネット販売ともに伸長した。法人や飲食業向けの売上が増加したが、2月中旬以降は減少した。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスによる自粛ムードの広がりによって、業況が悪化した。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルスによる業況の悪化が甚大である。(食肉小売)
- 新型コロナウイルスのため、2月以降の売上が前年同期比30～50%だった。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスによって、外出を控えるムードが高まり、売上が激減した。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスにより、旅行者が激減した。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスにより、売上が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 消費税増税の影響は、今期に入り無くなった。新型コロナウイルスの影響は、現段階では不明瞭だが、今後大きくなると考えている。(自動車小売)
- 3月の来店客数は減少したが、納車引取りや新商品投入により、売上と客数は不変だった。(自動車小売)
- 売上は前年同期比で20%程減少した。3月の客数は例年と比較して減少した。(自動車小売)
- 春には業況が好転すると考えており、設備投資を予定している。(自動車小売)
- 人材確保に苦労している。販売競争が激化している。(自動車小売)
- 増税と新型コロナウイルスの影響により、業況が悪化した。マスク等の衛生用品の販売により、一時的に売上が増加したが、全体的な消費は冷え込んでいる。(ドラッグストア)
- 新型コロナウイルスによる客数減少、中国人観光客の減少により、厳しい状況である。(ホームセンター)
- 年末商戦が低調なまま終了し、平時に戻る間もなく新型コロナウイルスの影響を受けたことで、最悪の2月決算となった。インバウンド比率が高い地域特性もあり、他地域より影響が大きいと思う。(大型店)
- 2月下旬から新型コロナウイルスの影響により、マスクやトイレットペーパー等、日用品の売上が増加した。学校の休校により、米、カップ麺、レトルト食品の売上が好調だった。(大型店)
- 客単価が上昇しており、売上が増加した。より良いものを買いたいという消費者のマインドが影響したと思う。(家電量販店)
- 新型コロナウイルスの影響で客数と売上が減少した。学校が休校のため、学生アルバイトが不足し、大変厳しい状況である。(コンビニ)
- 新型コロナウイルスの影響で、取引先が続々と休業しており、業況が大きく悪化した。(コンビニ)
- 人口減少、働き方改革、新型コロナウイルスにより業況が悪化した。(花・植木小売)

[来期の業況について]

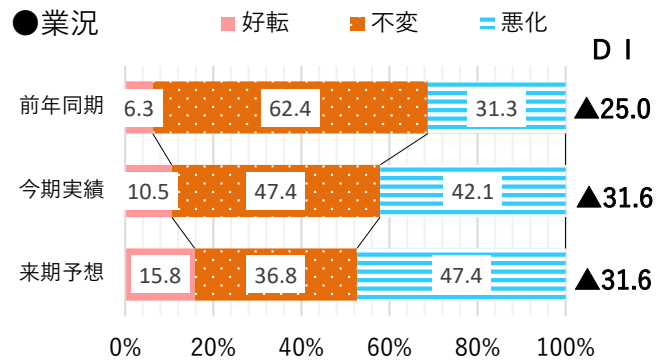
- 法人や飲食店向けの売上は減少を見込んでいる。ネット販売はさらに伸長するが、店頭販売の状況は変わらないと思う。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスの終息には時間がかかるだろう。終息まで業況は悪化する。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの影響が大きく、しばらく厳しい状況が続く見込みである。(衣服・身の回り品小売)
- 売上は予測できない。販売員に人気無く、最低賃金では雇用が難しい。(衣服・身の回り品小売)
- 年度末、年度初めにに向けて需要の増加が見込まれる。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスへの対策を考えてほしい。(衣服・身の回り品小売)
- 3月の売上の落ち込みや、買い控えの反動として売上が増加するかが重要である。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響で、自社や周辺企業の景気低迷が予想される。(自動車小売)
- 車両納期の遅れによる採算の悪化を見込んでいる。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの流行が続く場合、業況の悪化も続くと思込まれる。地域の景気が改善しなければ、国全体の景気回復も難しいと思われる。(ドラッグストア)
- 立地および業態特性から見ても、新型肺炎の流行が終息しなければ、客足の回復は難しい。3～4月は、新生活、新入学等の行事があり、12月に次ぐ繁忙期であるが、厳しい状況を予想する。(大型店)
- 日用品は家庭在庫があるため、売上の減少が予想される。その他の売上は、新型コロナウイルスの流行が落ち着けば例年並みになるだろう。(大型店)
- 通年では売上の増加を見込んでいる。オリンピックによる好況が期待できる。(家電量販店)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

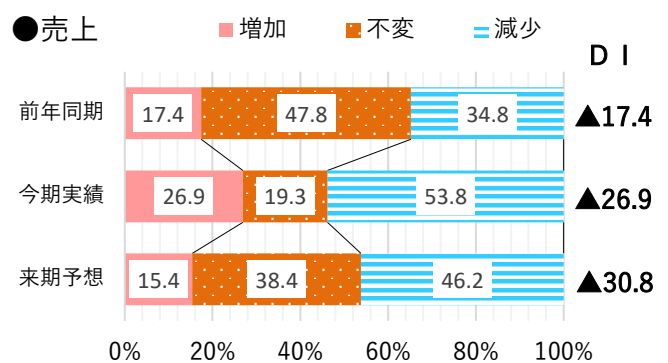
今期（2020.1～3）の業況判断DIは▲31.6で、前年同期（2019.1～3）と比べ6.6ポイント低下しました。

来期（2020.4～6）は、今期と比べ業況の横ばいを予想しています。



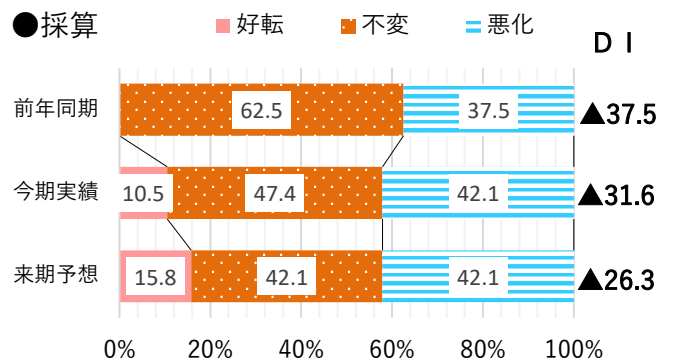
今期の売上高DIは▲26.9で、前年同期と比べ9.5ポイント低下しました。

来期は、売上の悪化傾向が強まると予想しています。

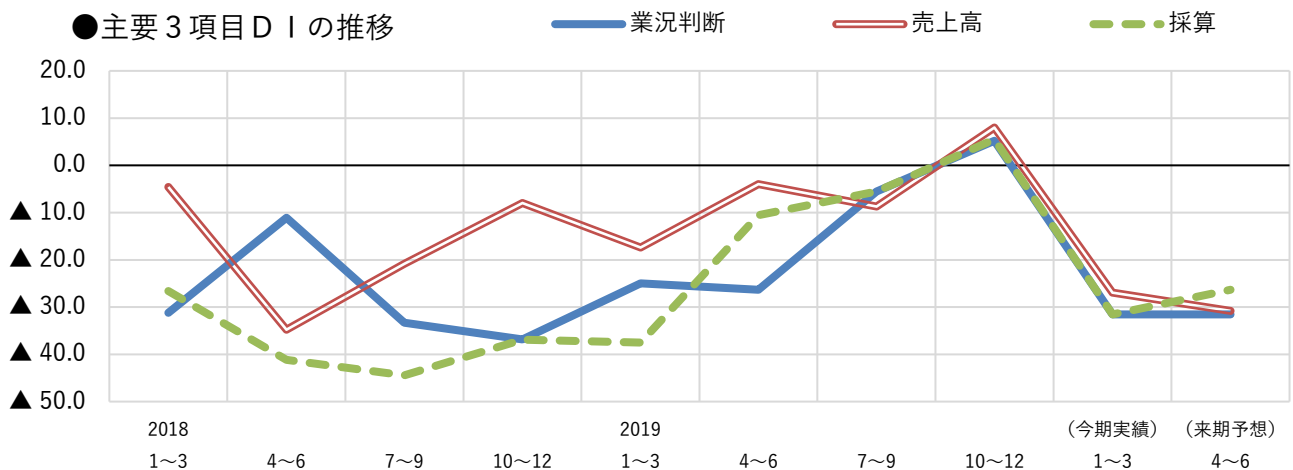


今期の採算DIは▲31.6で、前年同期と比べ5.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の減少傾向が弱まると予想しています。



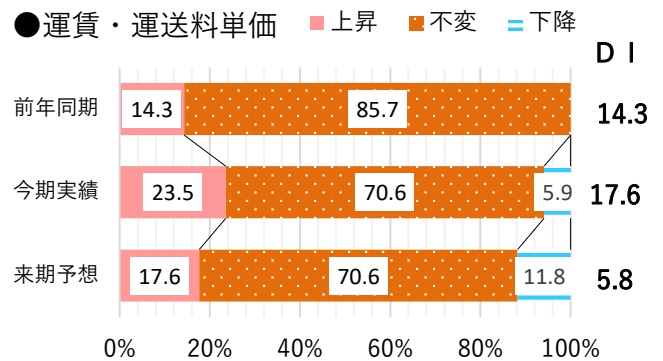
●主要3項目DIの推移



運賃・運送料単価、保管料単価

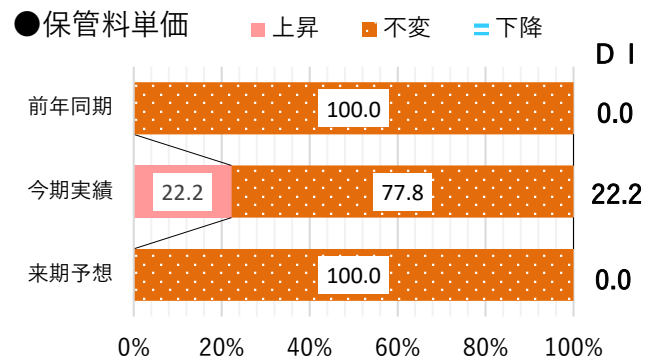
今期の運賃・運送料単価DIは17.6で、前年同期と比べ3.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ運賃・運送料単価上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の保管料単価DIは22.2で、前年同期と比べ22.2ポイント上昇しました。

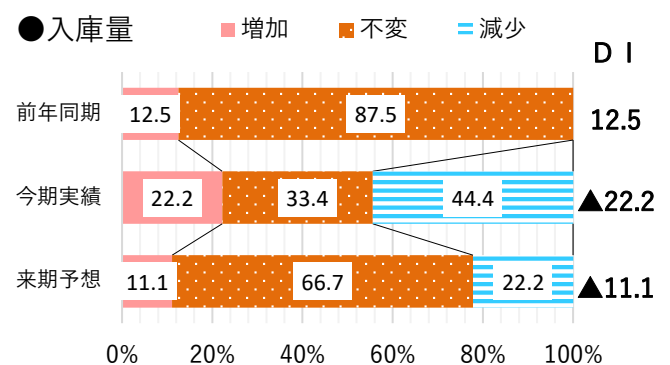
来期は、今期と比べ保管料単価の上昇傾向が落ち着くと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

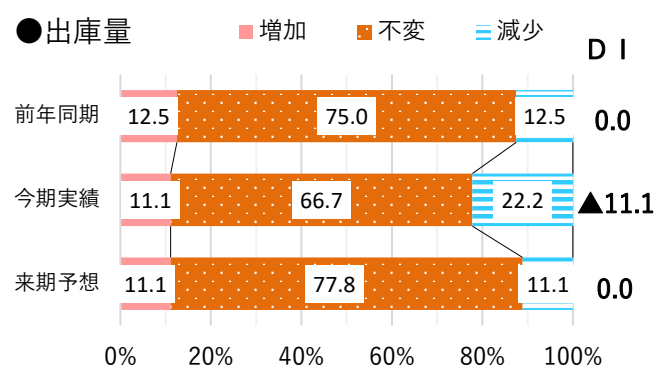
今期の入庫量DIは▲22.2で、前年同期と比べ34.7ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ入庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



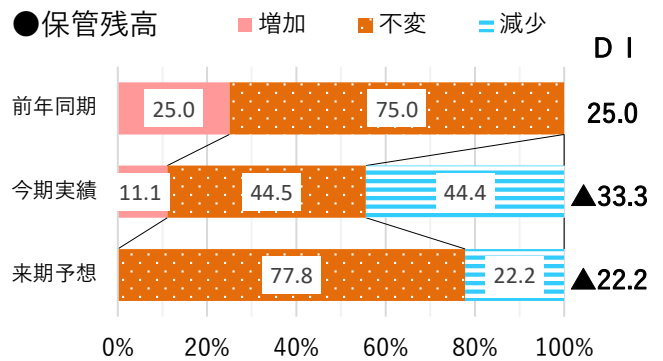
今期の出庫量DIは▲11.1で、前年同期と比べ11.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ出庫量の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の保管残高DIは▲33.3で、前年同期と比べ58.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

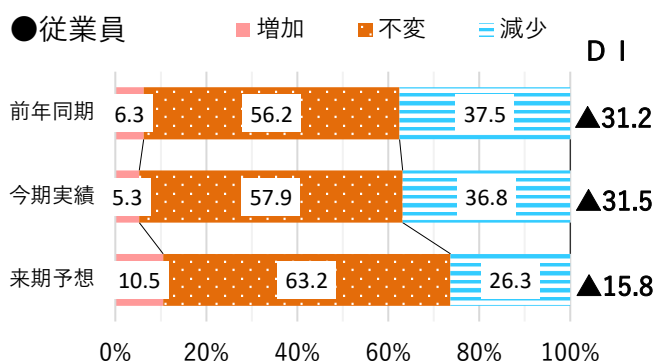
来期は、今期と比べ保管残高の減少傾向が弱まると予想しています。



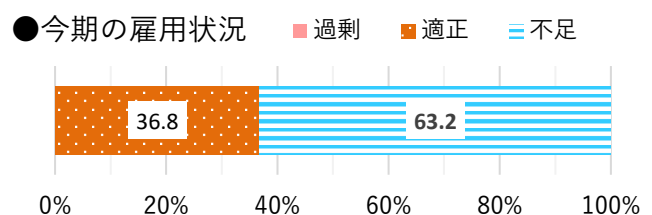
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲31.5で、前年同期と比べ0.3ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は36.8%、不足していると回答した企業の割合は63.2%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答で、運輸・倉庫業全体の36.8%を占めています。

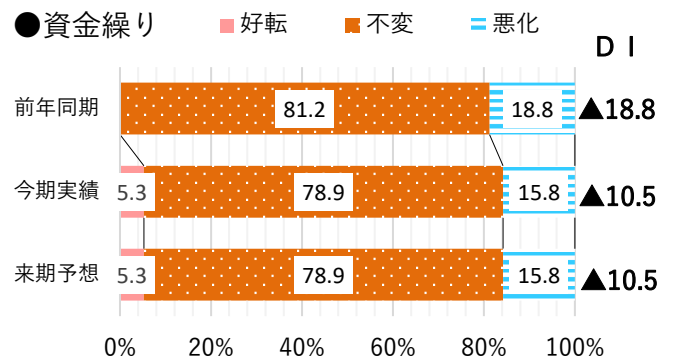
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	7
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	7

資金繰り、設備投資

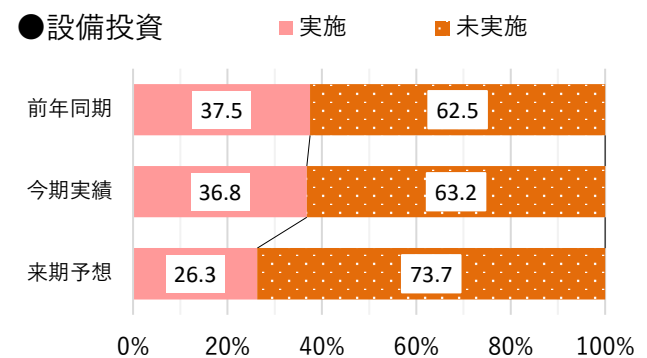
今期の資金繰りDIは▲10.5で、前年同期と比べ8.3ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの横ばいを予想しています。



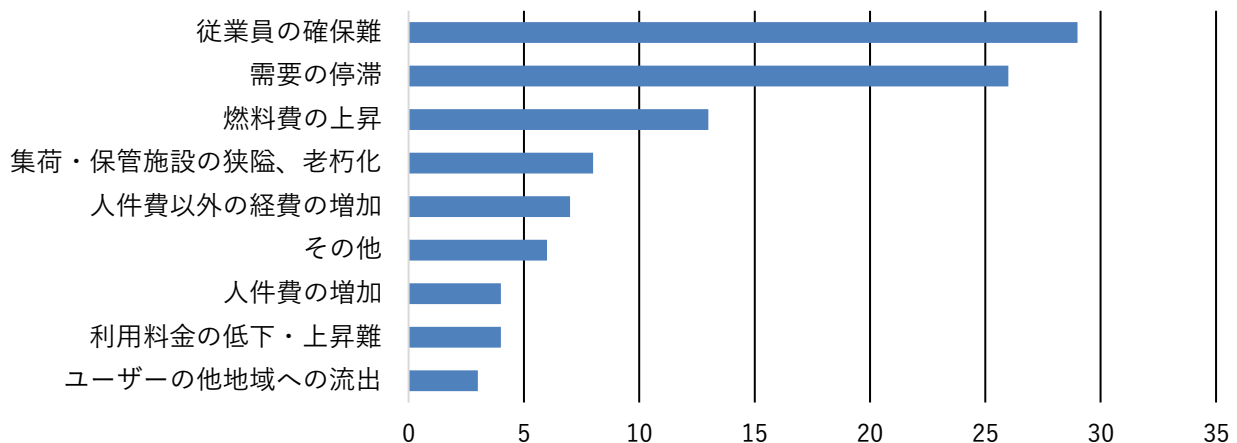
設備投資を実施した企業の割合は36.8%で、前年同期と比べ0.7ポイント低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「付帯施設」、「その他」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.3%で、今期と比べ減少すると予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「需要の停滞」、3位が「燃料費の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 冬期に除雪業務を行っているが、1～2月は降雪量が少なく、利益が出なかった。2月後半から降雪量が増加したが、今後も異常気象が続く懸念があるため、来年の冬も心配である。(道路貨物運送)
- 前年同期比で売上が増加に転じたが、例年並みに持ち直した程度である。(道路貨物運送)
- 2月以降、新型コロナウイルスによる物流の停滞を感じている。(道路貨物運送)
- 穀物等の貨物が減少したため、売上が減少した。(道路貨物運送)
- 新型コロナウイルスにより、荷動きが鈍くなった。(道路貨物運送)
- 得意先からの発注が増加した。(道路貨物運送)
- 燃料油種の変更により燃料価格が上昇したため、運賃を改定した。新型コロナウイルスにより団体客、個人客とも輸送人員が減少した。学校給食、レストラン等の食材需要が減少し、車両輸送台数が減少した。(道路旅客運送)
- 燃料価格は安定傾向だが、人口減少、ドライバー不足、新型コロナウイルスによる観光客減少と市民の自粛ムードの高まりが業況の悪化要因としてあまりにも大きい。(道路旅客運送)
- 暖冬と新型コロナウイルスによる消費減退により、利用客数が減少した。(道路旅客運送)
- 新型コロナウイルスの影響で、利用客数が減少した。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少に伴い、売上が減少した。(倉庫)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの影響が懸念される。建築資材の運搬が主な業務のため、現在は大きな影響を受けていないが、多くの企業が設備投資を控えると、徐々に受注が減少するだろう。(道路貨物運送)
- 新型コロナウイルスの影響で、先が見えない状況である。燃料価格は低下するだろう。(道路貨物運送)
- 公共工事等が中断した場合、一気に悪化するだろう。(道路貨物運送)
- 荷動きの悪化は、改善しないと思われる。(道路貨物運送)
- 新型コロナウイルスによる業況悪化が続くと予想する。(道路旅客運送)
- 需要の減退が続くことで、在庫量の減少が懸念される。(倉庫)
- 新型コロナウイルスによる経済活動の停滞に伴い、輸送人員と車両台数の減少が見込まれる。(水運)

観光業

業況、売上、採算

今期（2020.1～3）の業況判断DIは▲93.1で、前年同期(2019.1～3)と比べ98.9ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

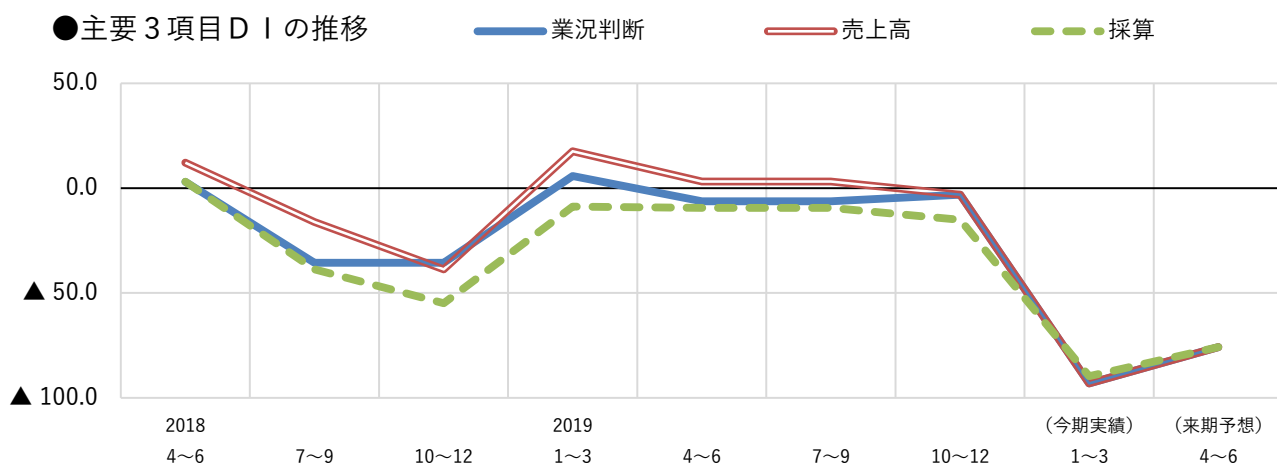
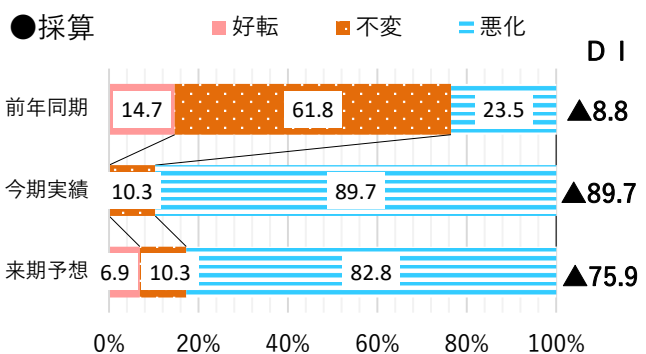
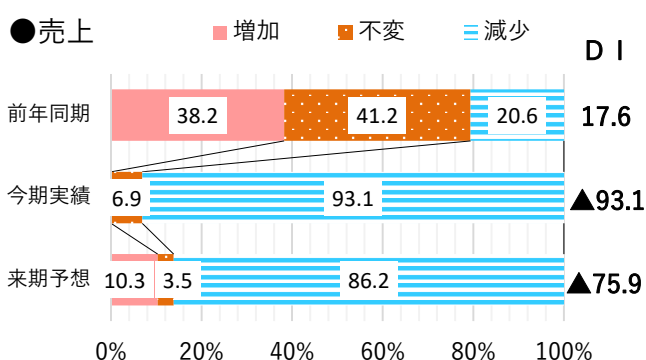
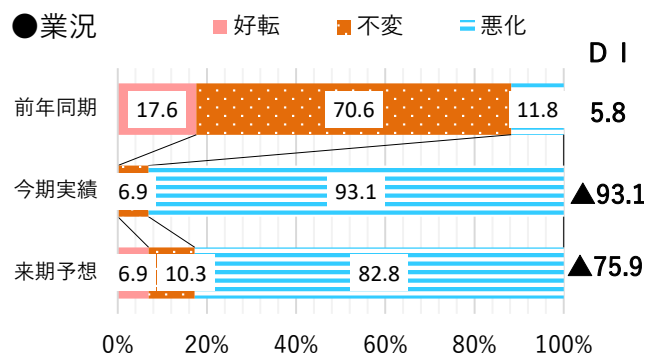
来期（2020.4～6）は、今期と比べ業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上DIは▲93.1で、前年同期と比べ110.7ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲89.7で、前年同期と比べ80.9ポイント低下し、大幅に悪化しました。

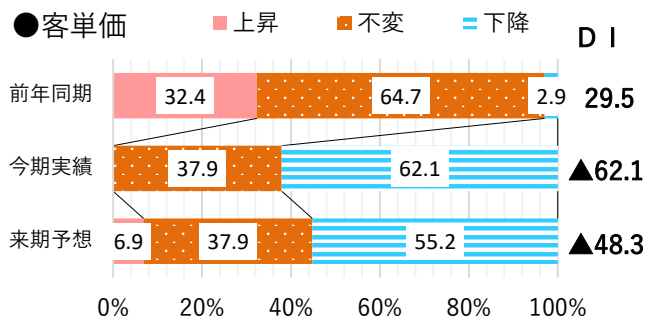
来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

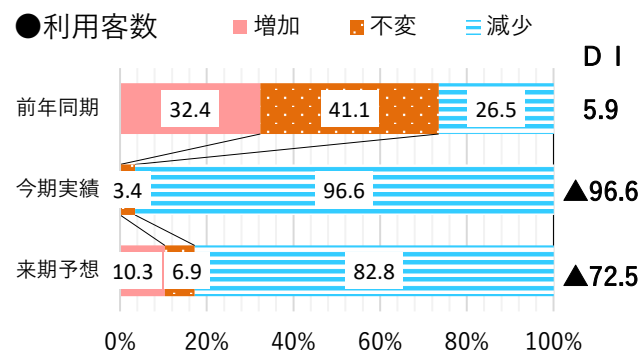
今期の客単価DIは▲62.1で、前年同期と比べ91.6ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、今期と比べ客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



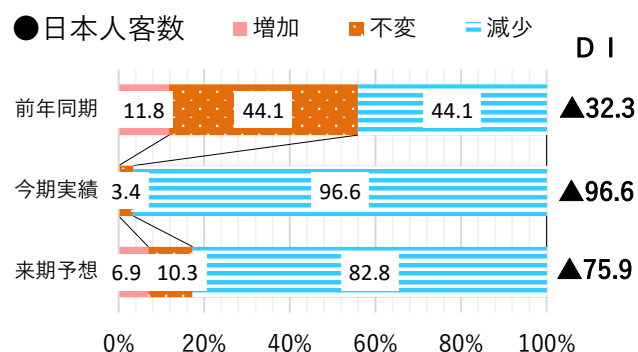
今期の利用客数DIは▲96.6で、前年同期と比べ102.5ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、今期と比べ利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



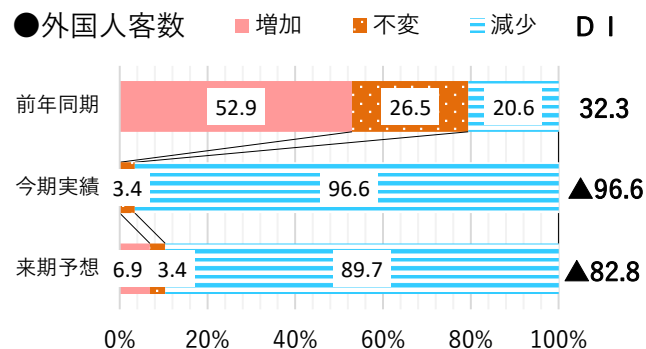
今期の日本人客数DIは▲96.6で、前年同期と比べ64.3ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、今期と比べ日本人客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の外国人客数DIは▲96.6で、前年同期と比べ128.9ポイント低下し、マイナスに転じました。

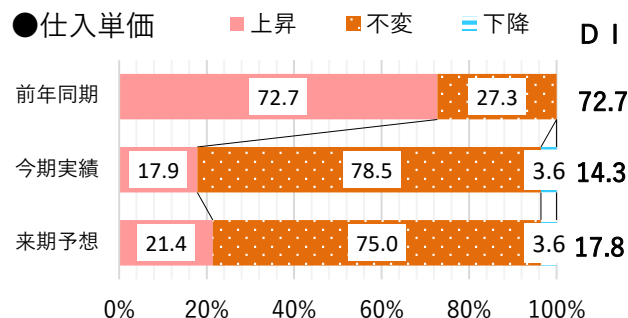
来期は、今期と比べ外国人客数の減少傾向が弱まると予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは14.3で、前年同期と比べ58.4ポイント低下し、大幅に下降しました。

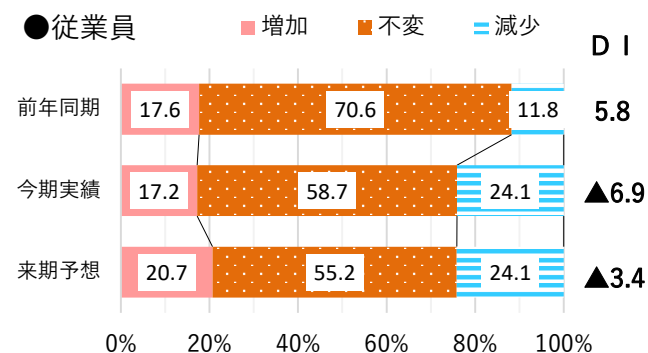
来期は、今期と比べ仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



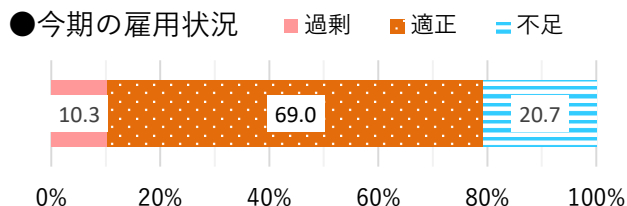
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲6.9で、前年同期と比べ12.7ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は10.3%、適正であると回答した企業の割合は69.0%、不足していると回答した企業の割合は20.7%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、観光業全体の41.3%を占めています。

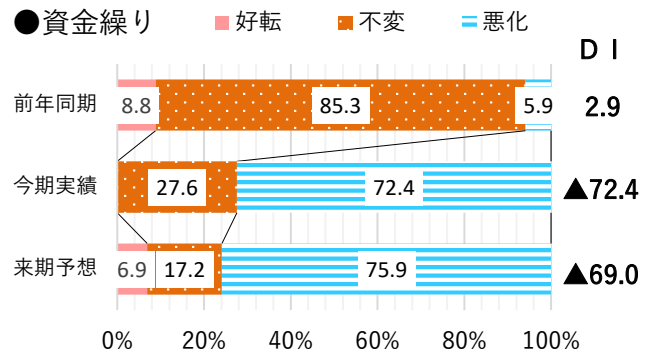
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」（同位）という回答でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	1
	適正	4
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	12
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	4
	不足	2

資金繰り、設備投資

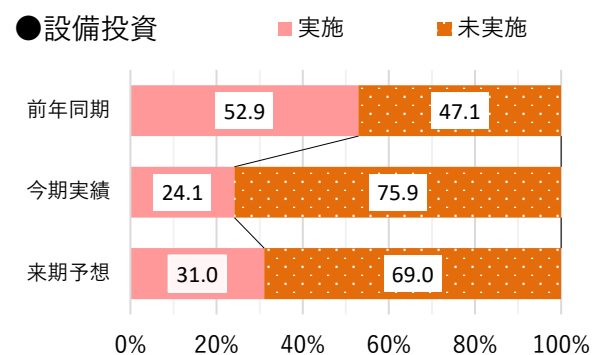
今期の資金繰りDIは▲72.4で、前年同期と比べ75.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は24.1%で、前年同期と比べて28.8%減少しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「車両運搬具」、「付帯施設」、「OA機器」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は31.0%で、今期と比べ増加すると予想しています。

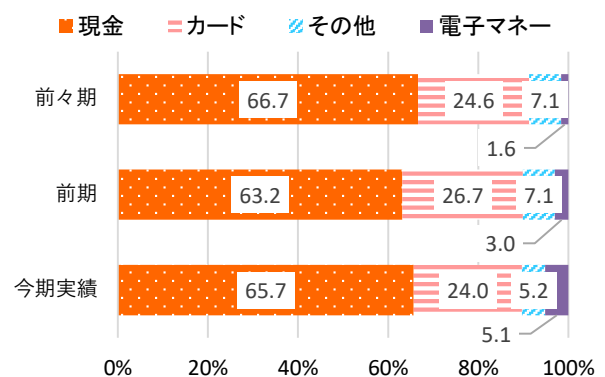


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で65.7%、2位がカードで24.0%、3位がその他で5.2%、4位が電子マネーで5.1%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、web決済、クーポン券、旅行券、掛売り、旅行代理店からの銀行振り込みです。

●今期利用客の決済方法(%)

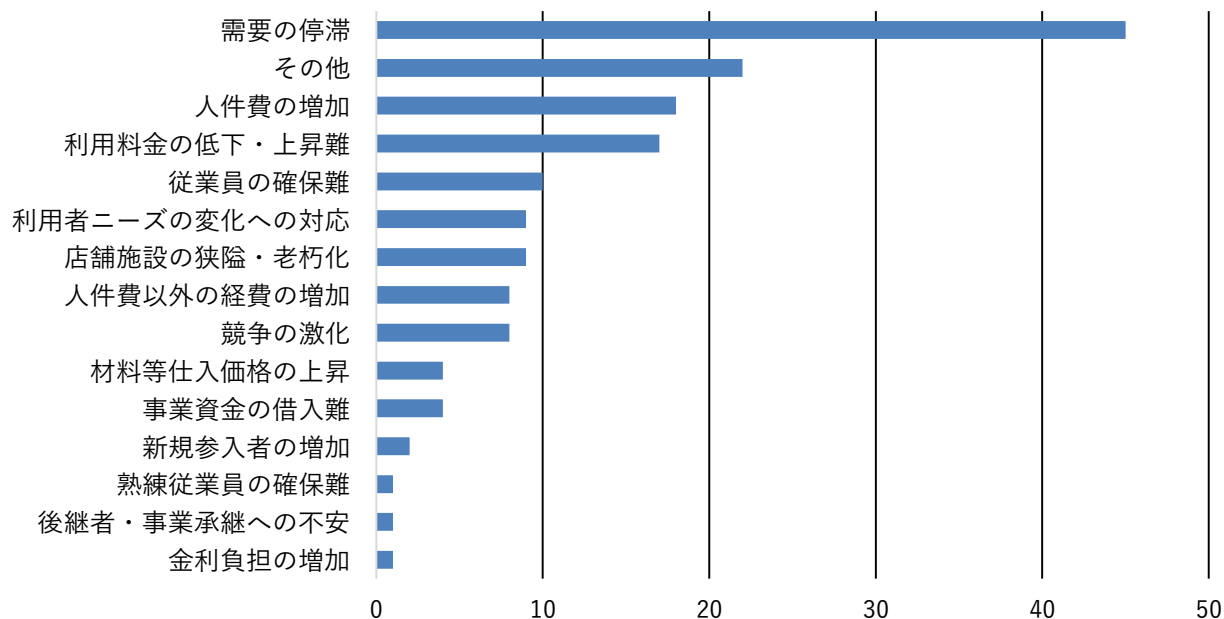


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は55.5%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- ふっこう割によって需要が高まった昨年と比較し、日本人客が減少した。新型コロナウイルスの感染拡大により、客数が減少した。（ホテル）
- 新型コロナウイルスにより、業況が大きく悪化した。観光をすることはできない雰囲気が醸成されている。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの影響で予約が減少したため、従業員の勤務時間を削減せざるを得ない。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの影響で売上、客数が減少し、業況が悪化した。（ホテル）
- 新型コロナウイルスの影響でキャンセルが増加し、3月は予約がない。（コテージ・ペンション）
- 1～2月は前年同期並の業績だったが、3月から今までに経験したことが無いほど業況が悪化した。誰もが不安の中で生活していると思う。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの流行により、2月後半から客数が減少している。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの流行により客数が激減し、対応に苦慮している。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの流行により、インバウンドが減少した。（飲食店）
- 観光客の減少が懸念事項である。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、国内外問わず客数が激減している。札幌雪まつりの頃から外国人の減少が顕著になり、2月は減少傾向が強まり、3月は開店休業状態である。長引くと事業の存続が危うい状況である。（土産品）
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、インバウンドはもとより、国内観光客も急速に落ち込み、業況が悪化した。（土産品）
- 新型コロナウイルスにより、前年同期比の売上が2月は6割、3月は半分以下に減少した。（土産品）
- 新型コロナウイルスにより、2月中旬以降の売上は前年同期比で15～20%減少した。（土産品）
- 新型コロナウイルスの影響で、外出を控える傾向が強まっており、売上が減少した。（土産品）
- 新型コロナウイルスの影響で、国内外問わず客数が減少した。最悪の状況である。（土産品）

- 国内外問わず来客数が著しく減少しており、通常の営業では赤字になる。(土産品)
- 新型コロナウイルスの影響で、観光客が激減した。(土産品)
- 雪不足と新型コロナウイルスにより、貸出件数が減少した。(レンタカー)
- 新型コロナウイルスの影響で、客数が激減した。(レンタカー)
- 新型コロナウイルスへの対策として、2月29日から3月31日まで臨時休業中のため、この間の売上はゼロである。(水運業)
- 今期は駐車場の営業のみだが、雪あかりの路期間中の利用者数は前年同期比で減少した。(船舶貸渡業)
- インバウンドは減少したが、顧客に占める比率は高くないため、業況は不変と判断した。(娯楽業)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの感染拡大による旅行客の減少が、いつまで続くのか懸念される。札幌でのオリンピック開催は、影響が限定的なため、業況が大きく好転することは無いと思われる。(ホテル)
- ゴールデンウィークまで辛抱しなければならないだろう。固定費や人件費の支払いが厳しくなるだろう。一定期間、入湯税免除等の施策を検討してほしい。(ホテル)
- 近隣のホテル増加や、新型コロナウイルスの影響が続くため、業況はより悪化するだろう。(ホテル)
- 前年同期比で、予約は減少している。(ホテル)
- 新型コロナウイルスの流行で、今後の見通しが立たない。経営できなくなる可能性もある。(飲食店)
- 一刻も早く新型コロナウイルスの流行が終息することを願う。我慢にも限界がある。(飲食店)
- 新型コロナウイルスが終息し、回復傾向に転じることを願うだけである。(飲食店)
- 新型コロナウイルスの流行が終息するまで、客数の減少は続くだろう。(飲食店)
- 4月1日からの食品の栄養成分表示義務化に伴い、包装資材に係る費用の増加が見込まれる。7月からのポリ袋有料化に合わせ、紙袋への移行を予定しており、紙袋製作費用等も増加するだろう。(土産品)
- 新型コロナウイルスの感染拡大の終息を期待するが、観光客の減少は半年～1年ほど続くと見ている。資金繰りの悪化や、最悪の事態に対応できるよう、金融機関と相談して準備を進めている。(土産品)
- 新型コロナウイルスの流行が終息すれば、好転する可能性があるが、消費税増税の影響もあり、油断できない状況である。(土産品)
- 新型コロナウイルスによる旅行控えの傾向は、来期まで継続すると予想する。(土産品)
- 新型コロナウイルスの状況が予想できないため、悪化する可能性が高い。(土産品)
- 新型コロナウイルスの終息が長引くことで、経済状況は悪化するだろう。(土産品)
- 新型コロナウイルス終息の見通しが立たず、レジャー利用者数回復の目途が立たない。(レンタカー)
- 見通しが立たないので、不安を感じている。(レンタカー)
- 4月1日から営業再開を予定しているが、売上は大きく減少する見込みである。(水運業)
- 新型コロナウイルスの影響により、船舶、駐車場ともに利用客の減少が見込まれる。(船舶貸渡業)
- 業況は不変で推移すると予想するが、新型コロナウイルスの影響で悪化する可能性がある。(娯楽業)

サービス業

業況、売上、採算

今期（2020.1～3）の業況判断DIは▲21.5で、前年同期(2019.1～3)と比べ32.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

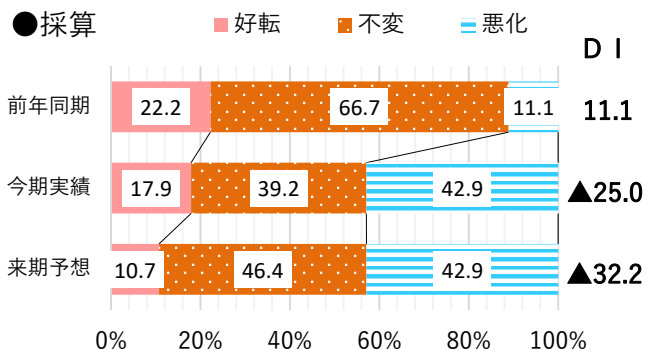
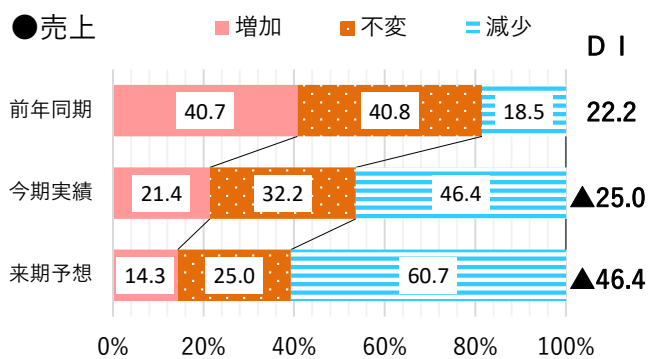
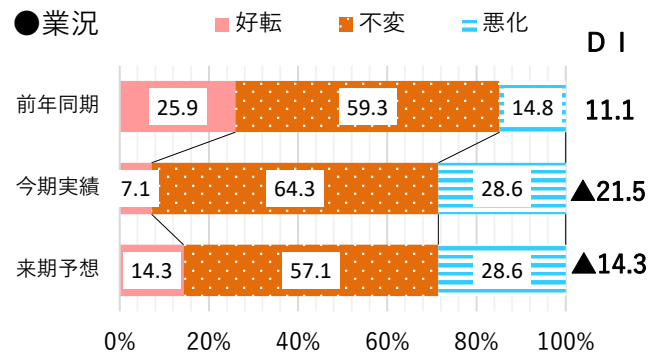
来期（2020.4～6）は、今期と比べ業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは▲25.0で、前年同期と比べ47.2ポイント低下し、マイナスに転じました。

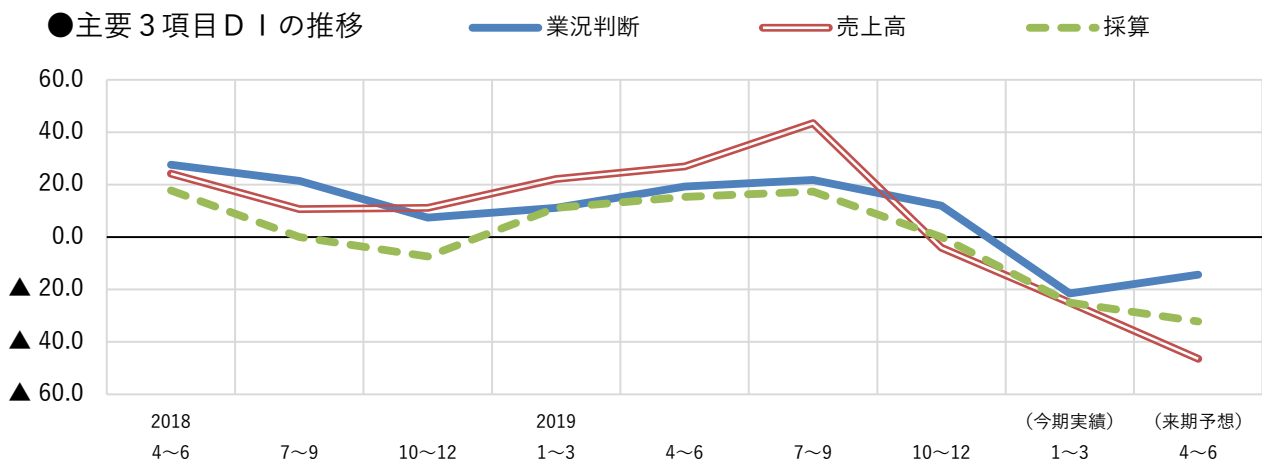
来期は、今期と比べ売上の減少傾向が強まると予想しています。

今期の採算DIは▲25.0で、前年同期と比べ36.1ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ採算に大きな変化はないと予想しています。



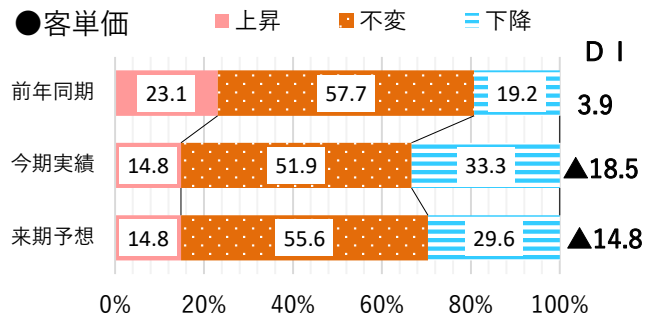
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

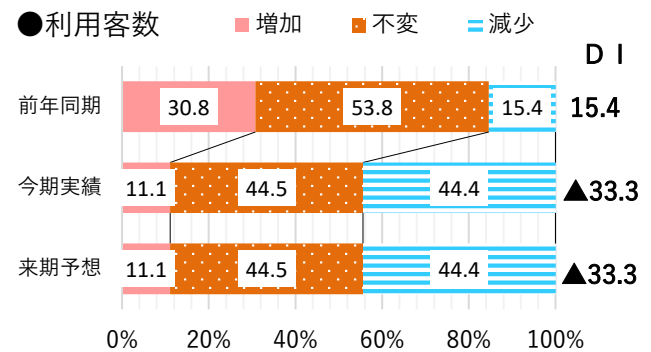
今期の客単価DIは▲18.5で、前年同期と比べ22.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



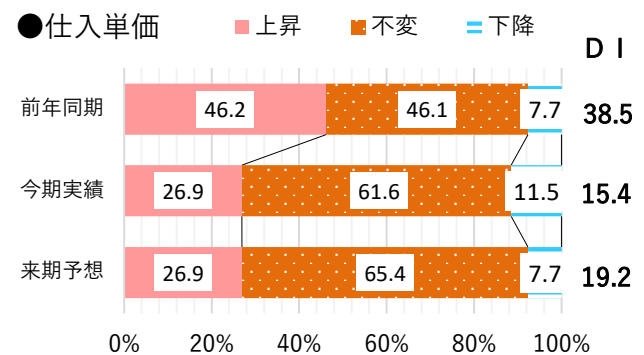
今期の利用客数DIは▲33.3で、前年同期と比べ48.7ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、今期と比べ利用客数の横ばいを予想しています。



今期の仕入単価DIは15.4で、前年同期と比べ23.1ポイント低下しました。

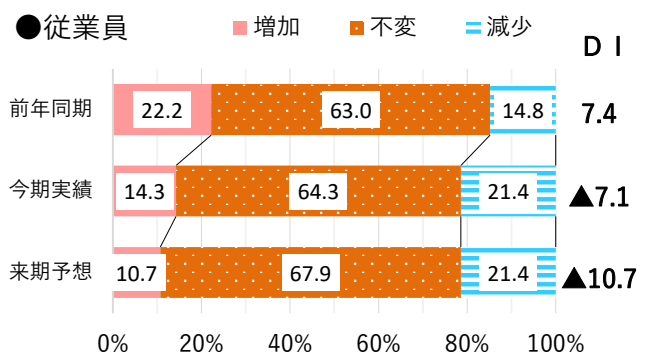
来期は、今期と比べ仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



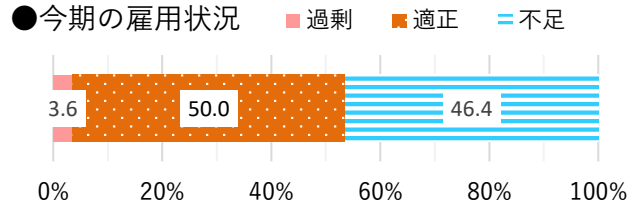
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲7.1で、前年同期と比べ14.5ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数の減少傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.6%、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



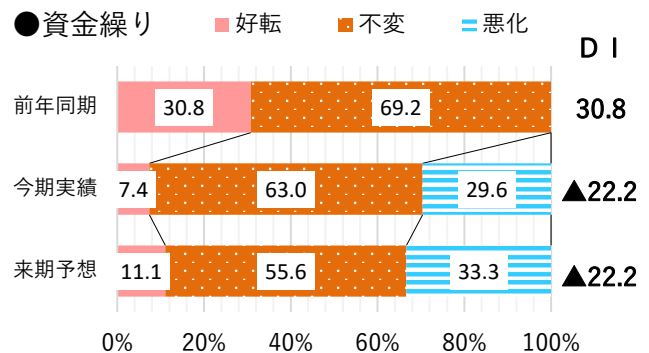
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の32.1%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	1
不変だった	過剰	1
	適正	9
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	4

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

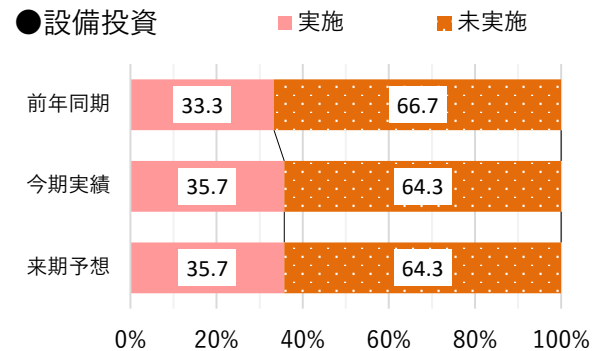
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲22.2で、前年同期と比べ53.0ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。



来期は、今期と比べ資金繰りの横ばいを予想しています。

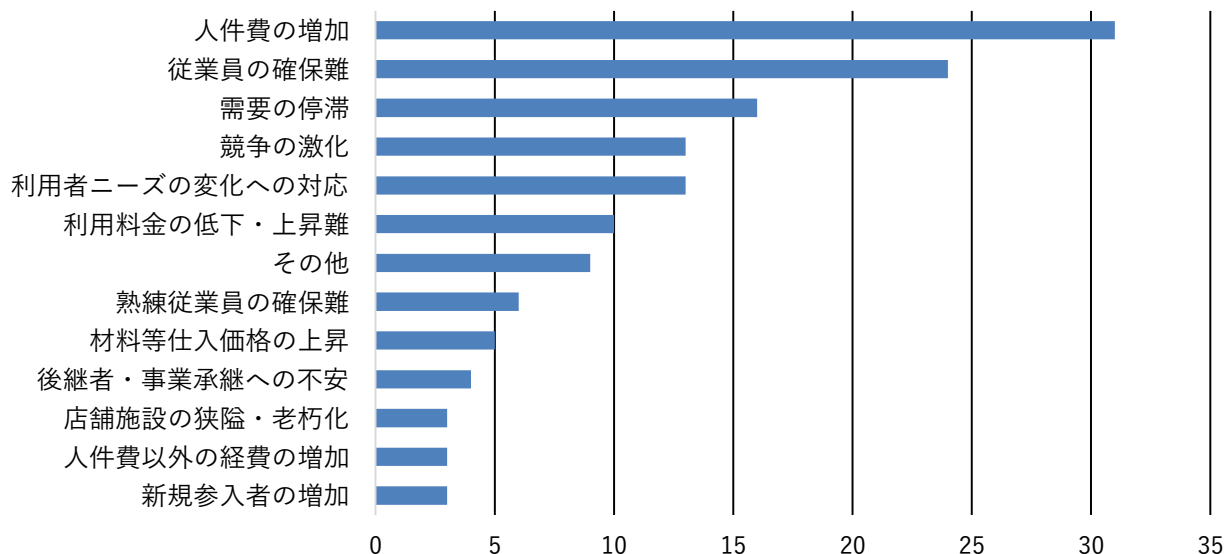
設備投資を実施した企業の割合は35.7%で、前年同期と比べ2.4%増加しました。投資内容は、1位が「OA機器」、2位が「建物」、「車両運搬具」（同位）の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は35.7%で、今期と比べ横ばいを予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、2位が「従業員の確保難」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスの影響で、食材が供給過多のため、仕入価格が減少した。道内客、本州客のキャンセルが多く、利用客数が大きく減少した。（飲食店）
- 雪あかりの路のシーズンと新型コロナウイルスの流行が重なり、業況が大きく悪化した。（飲食店）
- 全店舗で前年同期比の売上が半減した。（飲食店）
- 昨年10月の最低賃金上昇が、業況を悪化させている。（ビルメンテナンス）
- 新型コロナウイルスの影響で、収益が減少した。（ビルメンテナンス）
- 国税庁により保険商品取り扱いの方針が示されたことで、提案内容が変化した。（保険業）
- 1月、2月の売上が好調だったため、3月の落ち込みを補うことができた。3月は全てが悪化した。弱点も見えたため、今後の経営に生かしたい。（美容業）
- 新型コロナウイルスにより、売上、採算、業況等、雇用を除く全ての項目が悪化した。（旅行代理店）
- 冬季休業のため、業況に大きな変化は無かった。（スポーツ施設）
- シェア率上昇のため、増収となった。（教養・技能教授業）
- 新型コロナウイルスの流行により、売上が激減し、前年同期比45%程度となった。利用客数は、1日平均5～10名程度で推移している。（写真業）
- 業況に大きな変化は無いが、パートの賃金上昇がやや負担である。（出版業）
- 有給取得が義務化されたため、人材を2名程度確保しなければならないが、人件費の増加につながる。（廃棄物処理業）
- 人材の確保に苦労していたが、賃金の上昇、保育所の開設等により確保できた。（各種物品賃貸業）

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルス流行の早期終息を願うが、影響は長期化すると見ている。オリンピックによる景気改善もあまり期待できないため、設備投資を控えざるを得ない。（飲食店）
- 見通しが立たない。オリンピックの延期もあり、観光客の回復は期待できない。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの早期終息と、景気の回復を願うばかりである。（飲食店）
- 消費者マインドが好転しない限り、業況の回復は難しいだろう。（ビルメンテナンス）

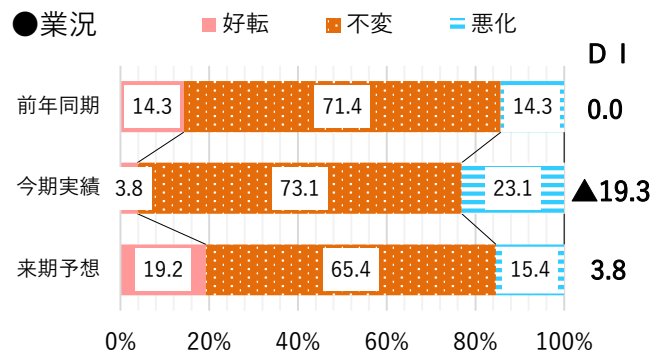
- B C Pを中心に、活動範囲を拡大したい。（保険業）
- 新型コロナウイルスの流行が終息すれば、業況の回復が見込まれる。（旅行代理店）
- プレー料金の値上げを予定している。（スポーツ施設）
- 新型コロナウイルスの影響による客入りの減少が予想される。（教養・技能教授業）
- B C Pを中心に、活動範囲を拡大したい。（保険業）
- 3月に引き続き、売上と客数の伸びは期待できない。客単価を引き上げる方法や、今後の戦略を考えている。（美容業）
- 他業種への参入を検討している。（出版業）
- 廃棄物関係は新型コロナウイルスの影響をあまり受けないため、ほぼ不変と予想する。（廃棄物処理業）
- 業況は今期と変わらない見込みである。職員の送迎バスを導入予定である。（各種物品賃貸業）

建設業

業況、売上、採算

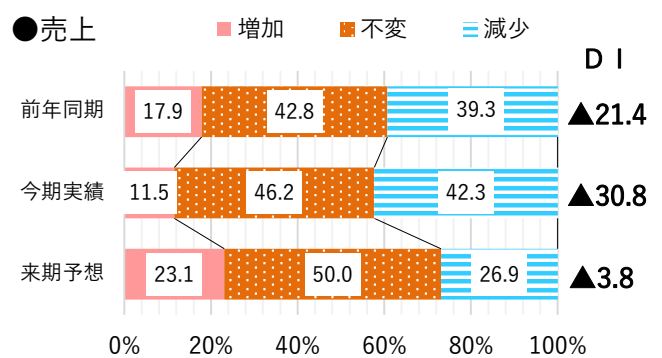
今期（2020.1～3）の業況判断DIは▲19.3で、前年同期(2019.1～3)と比べ19.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期（2020.4～6）は、今期と比べ業況が好転すると予想しています。



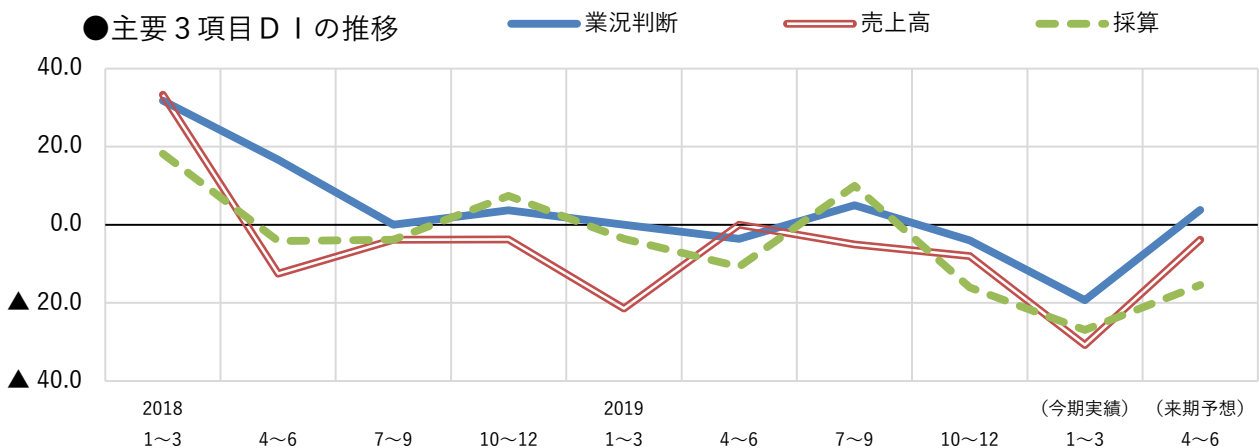
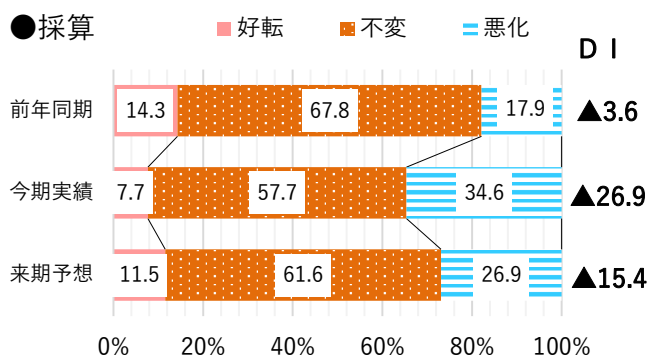
今期の売上高DIは▲30.8で、前年同期と比べ9.4ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ売上の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の採算DIは▲26.9で、前年同期と比べ23.3ポイント低下しました。

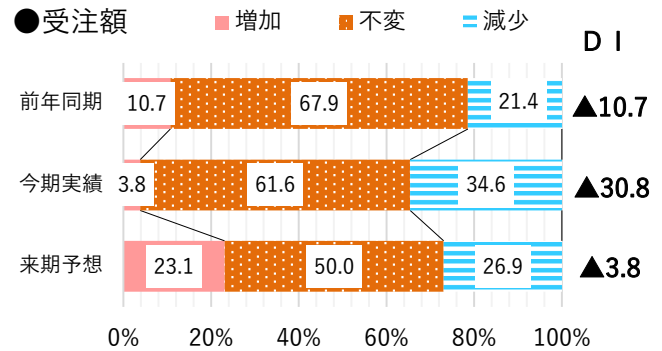
来期は、今期と比べ採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

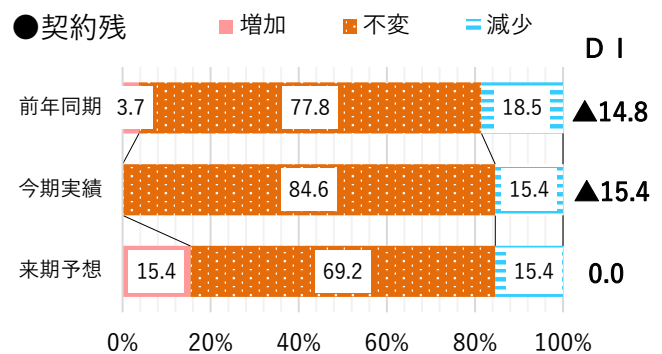
今期の受注額DIは▲30.8で、前年同期と比べ20.1ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ受注額の減少傾向が弱まると予想しています。



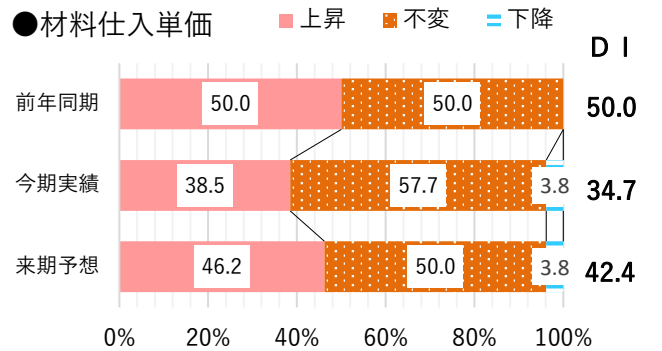
今期の契約残DIは▲15.4で、前年同期と比べ0.6ポイント低下しました。

来期は、今期と比べ契約残の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは34.7で、前年同期と比べ15.3ポイント低下しました。

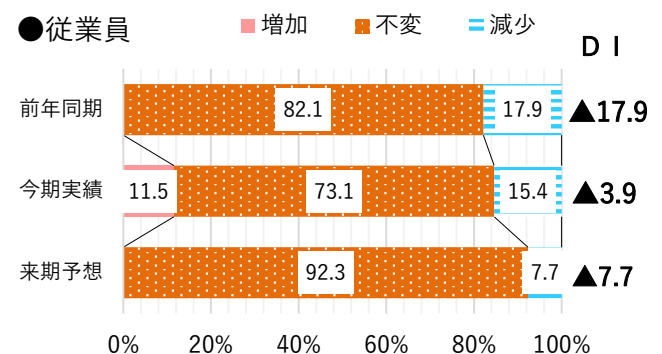
来期は、今期と比べ材料仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.9で、前年同期と比べ14.0ポイント上昇しました。

来期は、今期と比べ従業員数に大きな変化はないと予想しています。

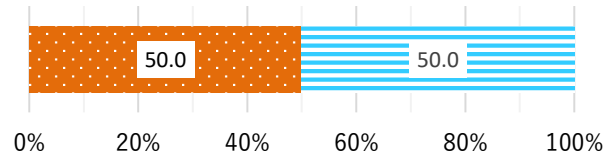


今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は50.0%、不足していると回答した企業の割合は50.0%でした。

従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、建設業全体の42.3%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

●今期の雇用状況 ■ 過剰 ■ 適正 ■ 不足



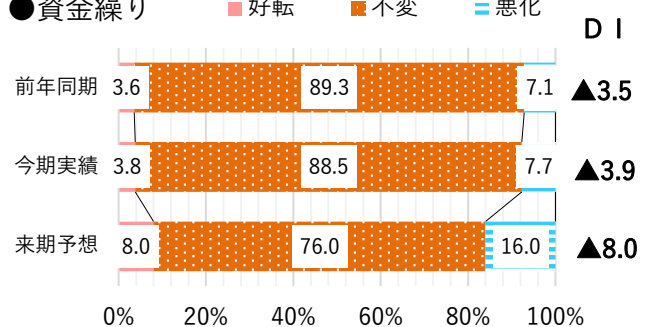
今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	11
	不足	8
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	4

資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲3.9で、前年同期と比べ0.4イント低下しました。

来期は、今期と比べ資金繰りの悪化傾向が強まると予想しています。

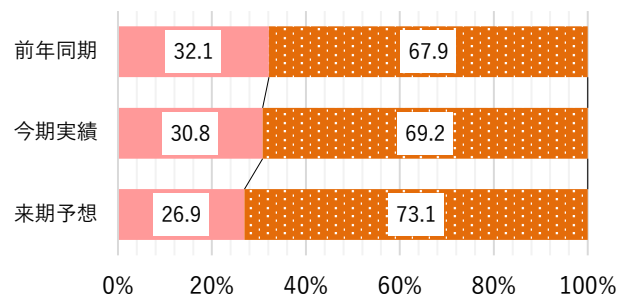
●資金繰り ■ 好転 ■ 不変 ■ 悪化



設備投資を実施した企業の割合は30.8%で、前年同期と比べ1.3%減少しました。投資内容は、1位が「建設機械」、2位が「車両運搬具」（同位）、3位が「OA機器」の順です。

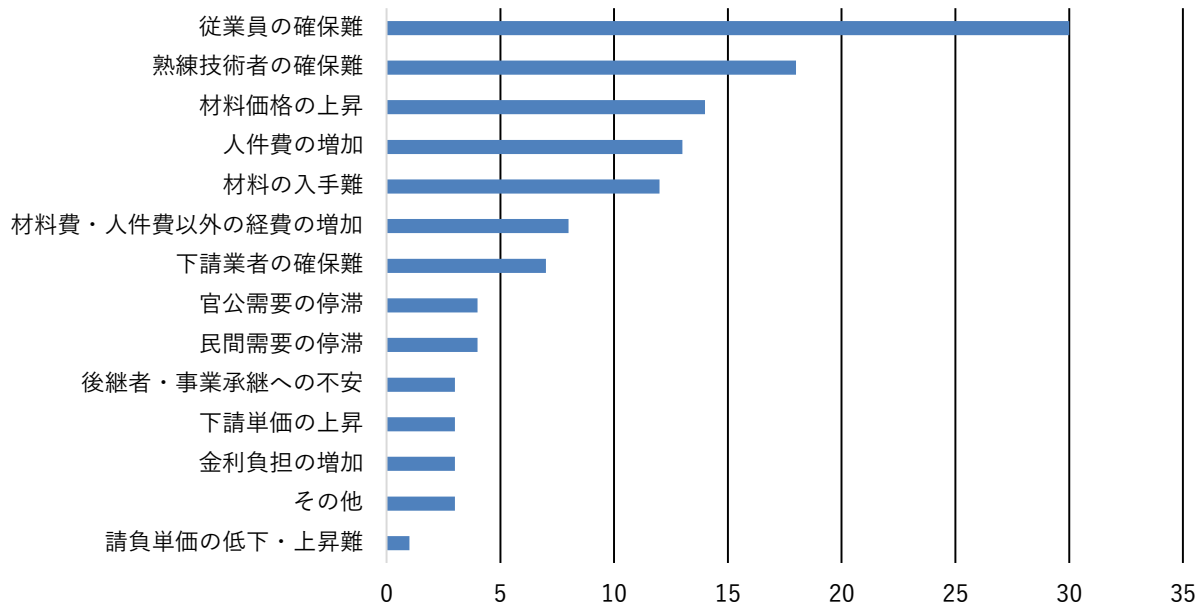
来期に設備投資を計画している企業の割合は26.9%で、今期と比べ減少を予想しています。

●設備投資 ■ 実施 ■ 未実施



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「熟練技術者の確保難」、3位が「材料価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 雪が少なかったため、売上が減少した。顧客が今後の業況の変化を警戒しているのか、受注が減少した。人材確保は難しい状況にある。世界情勢を見る限り、仕入価格は上昇するだろう。(一般土木工事業)
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、海外からの建築部材の輸入が止まっているため、建築部材の入手が困難である。その為、受注や引き渡しができない状況にある。(一般土木工事業)
- 働き方改革の影響で人件費が増加し、利益率が低下した。(一般管工事業)
- 受注件数は変わらなかったが、売上が減少した。材料仕入価格はやや上昇した。(職別工事業)
- 請負工事は増加したが、従業員の技術低下を感じる。(職別工事業)
- 昨年春に選挙があったため、工事の発注が遅れた。(職別工事業)
- 売上は増加したが、外注費が増加したため、全体としては不変である。(造園業)
- 人材が不足しているが、業務内容が特殊なため、外国人労働者の雇用も考えづらい。(電気工事業)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの影響が不透明なため、業況を予想できない。(一般土木工事業)
- 新型コロナウイルスの影響で、資材の搬入に遅れが出ることが予想されるため、材料費の高騰や利益率の低下が懸念される。(一般管工事業)
- 新型コロナウイルスの流行がいつ終息するか、不安を感じている。(職別工事業)
- 受注件数と売上の増加を見込む。(職別工事業)
- 外注費を減らしたいが、ここ2～3年ではできない見込みである。(造園業)
- 受注は増加するが、人材不足のために未消化工事も増加するだろう。(電気工事業)

市内企業倒産状況

2020年1月～3月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は3件、前年同期比増加
負債総額は7億3,400万円、前年同期比増加

	倒産件数		負債総額
	3件		7億3,400万円
前年同期比	件数 +1件 (前年同期 2件)		負債 +6億600万円 (前年同期 1億2,800万円)
■1月 菓子製造（負債1,400万円：業績不振による破産）、金網製造（負債6億円：業績不振による破産）の2件が発生した。			
■2月 建設資材販売（負債1億2,000万円：親会社倒産の余波による破産）の1件が発生した。			
■3月 なし			

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2020年1月～3月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は59件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は33棟33戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数		新設着工住宅戸数
	59件		33棟33戸
前年同期比	件数 +6件 (前年同期 53件)		戸数 +2棟-51戸 (前年同期 31棟84戸)
※変更確認又は変更通知を除く。			